

平成 28 年度

中英研會報

第 75 号

東京都中学校英語教育研究会

平成28年度 ― 行 動 目 標 ―

グローバル化に対応した教育環境づくりを進めるため、国は小・中・高等学校を通じた英語教育全体の抜本的充実を図ろうとしており、社会全体も大きな期待を寄せている。東京都中学校英語教育研究会は、その期待に応えるため、次のような行動目標のもと中学校英語教育のなお一層の充実・発展を目指して活動する。

1. 組織の充実とその活性化を図る。
 - (1) 都中英研の活動がより充実したものとなるよう、組織全体の見直しを行う。
 - (2) 都中英研の各種事業により多くの教員や学校が参画できるようにし、その活性化を図る。
 - (3) 都中英研の諸活動が一層活発に進められるよう、各地区の部長・幹事と連携を密にする。
2. 人材の発掘とその育成に努める。
 - (1) 有能な人材を発掘し、リーダー層の育成を図るとともに、英語教員全体の資質向上を推進する。
 - (2) 英語教員の資質向上を目指した研修事業を積極的に企画し遂行する。
 - (3) 英語教員の育成と研修の充実を目的に、授業研究を一層活発に推進できるよう支援体制を強化する。
3. 英語教育に関わる関係機関や関係団体との連携を強化する。
 - (1) 第32回オリンピック競技大会（2020／東京）、東京2020パラリンピック競技大会の開催を受け、東京都教育委員会等とも連携しながら、東京方式少人数・習熟度別指導の充実を図り、英語が使える生徒を育てる。
 - (2) 「東京都小学校英語活動研究会」、「東京都高等学校英語教育研究会」との情報交換を密に行い、小・中・高等学校の学びを円滑に接続できるようにする。
4. 調査・研究の充実を図る。
 - (1) 学習指導要領の趣旨を踏まえ、組織的な調査・研究を推進する。
 - (2) 英語教育に関わる基礎的事項等についての調査活動を行う。
 - (3) 英語教育に関わる今日的かつ実践的な課題についての研究活動を行う。特に小学校における外国語活動との関連に留意した研究を充実する。
5. 英語教育に関わる各種情報の収集・発信を進める。
 - (1) これまでの広報媒体を活用して、各種情報の発信を行う。
 - (2) HP、Facebook等の活用を図り、それを通して各種情報の受信・発信を行う。
 - (3) 各地区との連携を進め、情報の共有化にとどまらず相互協力による事業を推進する。

目 次

| | | |
|---|----------------|----|
| ●都中英研の課題 | 飯島 光正 | 1 |
| ●外国語教育の動向と今後の展望 ～英語科教員が心得ておきたいこと～ | 渡部 正嗣 | 2 |
| ●中学校英語の指導の充実に向けて | 中谷 愛 | 4 |
| ●東京都教職員研修センターにおける外国語(英語)に関する研修について | 市川 拓治 | 6 |
| 実践研究 | | |
| (1) 英語学芸大会 Playの部 第1位 英語劇“Jimmy Valentine” | 鈴木 悟 | 8 |
| (2) 英語学芸大会 Speech部 第1位 生徒の自己表現に寄り添う | 山本真夕子 田中 美穂 | 9 |
| (3) 平成28年度 東京都教育研究員 中学・外国語部会報告 1分間継続して会話を続けるための指導の工夫 | 東京都教育委員会 | 10 |
| (4) 平成28年度 研究開発委員会 中学校外国語部会報告 即興でスピーチができるようにするための学習到達目標の設定と段階的な指導 | 東京都教育委員会 | 13 |
| (5) 10年目での初挑戦 ～東京教師道場での学びについて～ | 水嶋 諒 | 16 |
| (6) 関東甲信地区ブロック神奈川大会 グローバル化する社会で、積極的にコミュニケーションを図ろうとする生徒の育成 ～受信から発信へとつながる4技能の統合的な指導の工夫～ | 佐藤ひろみ | 18 |
| ●各部報告 | | |
| ・総務部報告 | 刀根 武史 | 20 |
| ・事業部報告 | 横山 達也 | 21 |
| ・調査部報告 | 五十嵐浩子 | 22 |
| ・研究部報告 | 石井 亨 | 23 |
| ・プロジェクト・チーム部報告 | 斉藤 節子 | 25 |
| ・出版部報告 | 今本由美子 | 25 |
| ●研究大会報告 | | |
| ・第56回 大都市公立中学校英語教育研究会連絡協議会(横浜大会) | 川越 豊彦 | 26 |
| ・全英連報告 第66回 全国英語教育研究団体連合会総会(山口大会) | 惣田 修一 | 27 |
| ・第40回 関東甲信地区中学校英語教育研究(神奈川大会) | 刀根 武史 | 28 |
| ●各地区の活動状況 | | 29 |
| ●中英研事業報告 | | 55 |
| ●中英研会則 | | 57 |
| ●役員一覧 | | 59 |
| ●あとがき | | 63 |

都中英研の課題

会 長 飯島 光正
(東京都中学校英語教育研究会)

平成33年度（2021年）新しい学習指導要領が中学校において全面実施されます。その前年、平成32年度（2020年）には小学校が全面実施です。小学校で教科としての英語科がスタートする年でもあります。かつてない大きな変化の大改訂となることでしよう。小学校における英語教育は各地区において温度差はあるもののその推進に努めてきました。出前授業や小中連携プログラムの一環として、近隣の小学校で英語活動に参加した先生方も多いと思います。中学校へのスムーズな接続を目的とした取り組みだと思えます。

さて、小学校英語科に関してはまだまだ不透明な部分がたくさんあります。誰が教えるのか、何時間授業をするのか、授業時間は何分で帯の活動になるのか等今後検討されるべき様々な課題がたくさんあります。小学校の事だからではなく、地域の関係小学校として、連携を深め、専門職としてのアドバイスを送っていただきたいと思えます。このように変化の激しい時代を確実に生き抜くためにも英語教育の根幹をしっかりと見定め、生徒のために中学校英語教育のさらなる発展に寄与していただきたいと思えます。また平成32年（2020年）にオリンピック・パラリンピック東京大会が開催されます。多くの外国人が東京を訪れる中、中学生が動ずることなく英語を使って道案内や東京を紹介できるようにすることが求められています。小、中、高校生に配られ、全教育活動や家庭での活用用教材の「Welcome to Tokyo」の取り扱いも課題となることでしよう。

平成28年12月19日発行の「都中英研だより」において都中英研の各部紹介文を掲載しました。現在都中英研では6つの部で活動しています。多くの先生方が都中英研の諸活動に参加していただけることを期待しています。英語の授業時間が週4時間になったことや少人数授業などで英語教員が増員されたこと等、人的配置も大きく変化してきました。若手教員も増え、各種研究授業には多くの若い先生方の参加が増えています。都中英研ではワークショップ形式の授業研究を5部9講座開催しています。参加者も年々増え、一講座50名以上の参加者が集まります。しかし、まだまだこれらの活動が充分浸透されていません。全都2,000名以上の英語教員が明日の授業づくりのために一年に一回は参加する機会を作っていただきたいと考えています。なかなか学校を空けることが困難になった時代ではありますが、皆さん一人一人が東京都の英語教育の担い手です。自信を持って参加体制を確立してください。これからも人材育成を進めることが、本研究会のますますの発展につながることを確信しています。

外国語教育の動向と今後の展望

～英語科教員が心得ておきたいこと～

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会外国語ワーキンググループ
島根県安来市立第三中学校 教頭 渡部 正嗣

平成 27 年 8 月に中央教育審議会教育課程企画特別部会が取りまとめた「論点整理」を踏まえ、学習指導要領改訂の方向性を検討するため、平成 27 年 10 月から平成 28 年 6 月まで、外国語ワーキンググループでの審議が 10 回にわたって行われた。同年 8 月にその審議が取りまとめられると、その後、小・中・高等学校それぞれの学習指導要領について具体的な改訂案等が検討され、平成 28 年 12 月 21 日には、中央教育審議会から「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（中教審第 197 号）」（以下、「答申」）が示されたところである。

本稿では、外国語ワーキンググループ及び学習指導要領改訂に係る検討会議に委員として参加した立場から、外国語教育の動向と今後の展望等について、特に英語科教員が心得ておきたいことを中心に述べようと思う。

急速なグローバル化の進展により、子供たちがやがて迎える社会では、一部の職種等に限らず、様々な場面において日常的に外国語でコミュニケーションを図る力が必要になると予想される。現行の学習指導要領のもと、4 技能の総合的な育成等、指導改善による一定の成果が認められたものの、依然として語彙・文法等の知識習得に重点が置かれる傾向は強く、外国語によるコミュニケーション能力の育成を意識した指導が十分ではない。例えるなら、水泳の指導をする際、プールに入ることなく、教室で泳法や息継ぎの仕方について講義を受けるようなもので、それだけでは泳げるようにはならない。また、プールに入ったとしても、浮き輪やビート板を使った練習ばかりでは、自力で泳ぐ力は身につかない。句型練習や反復練習、定型会話練習は、浮き輪やビート板の練習になぞらえる。次期学習指導要領は、子供たちに「自力で泳ぐ力」を身につけさせることを重視したものであり、コミュニケーションの目的・場面・状況等に応じて外国語を適切に活用できる生徒を育成しようとしていることを、まずもってすべての英語科教員が肝に銘じておく必要がある。

答申では、すべての教科等で、育成を目指す資質・能力を「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱として整理した。外国語科で育成を目指す資質・能力については、答申の別添 13-1 をご覧いただきたい。この三つの柱は観点別学習状況評価の観点と関わるもので、現行の 4 観点から 3 観点に変更されたことを踏まえると、評価の具体的方法についてはさらに審議が望まれるところであるが、「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力等」は一体的に育成されるものであること、「思考力・判断力・表現力等」の指導・評価を確実に行う必要があることを心に留めておきたい。余談ではあるが、今回の改訂で、指導する語彙数は小学校で 600～700 語程度、中学校で 1,600～1,800 語程度、高等学校で 1,800～2,500 語程度と示されることになっている。これらをすべて指導し覚えさせることが「知識・技能」であるという誤解だけは避けなければならない。

「思考力・判断力・表現力等」を高めるためには、学習過程において、生徒自身が学

んだことの意味付けを行ったり、既得の知識や経験と、新たに得られた知識を言語活動へつなげたりすることが大切である。そのため、生徒が、①設定されたコミュニケーションの目的・場面・状況等を理解し、②目的に応じて情報や意見等を発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立て、③対話的な学びとなる目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う、④言語面、内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行う、というプロセスを意識した学習場면을計画的に設けることが求められる。これまで「言語活動」と呼んでいた活動が、ともすれば「英語を練習させるため」という指導者の一方的なニーズにより設定され、生徒がその言語活動を行う必然性やそこへ向かう意欲等については考慮されていなかったのではないかと、あるいは言語活動がうわべだけのやり取りやゲーム的な楽しさだけを求める活動に留まり、「主体的」「対話的」で「深い」学びにつながっていなかったのではないかと、このことを顧み、言語活動の質を高めていく必要がある。そして、そうした言語活動から生徒の「思考力・判断力・表現力等」をどのように評価していくか、研修を深めていかなければならない。

次期学習指導要領における外国語科の目標は、前述の三つの柱を踏まえ、「外国語を使って何ができるようになるか」を明確にする形で構成される。その際、これまで4技能として扱っていたものを、「聞くこと」「読むこと」「話すこと(やり取り)」「話すこと(発表)」「書くこと」の5領域に整理し、それぞれ「何ができるようになるか」を小・中・高等学校における子供たちの発達段階を踏まえて具体的に示した領域別目標を設定する。複数の領域を統合的に扱う言語活動を通して、生徒が「できること」を増やし求められる英語力の育成に迫る。また、今回の改訂では、中学校においても授業は英語で行うことが明記される。これは、生徒にとって身近なコミュニケーションの場面を設定し、学習した語彙や表現等を実際に活用する活動を充実させるとともに、高等学校への円滑な接続を図るためのものである。

これらのことを踏まえると、Teacher Talk等による interaction の充実は、授業改善の要として一層重視すべきものと考えられる。教員がいかに英語を日常的に使って生徒の英語使用を引き出すか、そうした視点での授業研究、研修等や教員の英語力の向上が求められる。小学校で外国語が教科化されると、これまでは中学校で指導していた表現や文構造等にも慣れ親しむことになるが、それらが中学校の指導計画では第1学年後半に学習するものであっても、導入期から様々な場面で使っていくことが重要であり、Teacher Talk等による interaction はまさにその絶好の機会となる。「小学校の復習」と称し既習表現をドリル練習したり、小学校で慣れ親しんだ表現をそのまま単純に繰り返したりするのではなく、異なる文脈の中でスパイラルに使わせて、より幅広くコミュニケーションできるようにさせることを意識したい。そのため、小学校での外国語教育について理解を深め、小学校で学んだ表現等を教室で意図的に活用できるよう教材研究や授業計画作成を行っていくことも、これからの中学校英語科教員には強く求められる。

我々英語科教員が心得ておくべきことはまだ他にも多々あるが、紙面の都合上これまでとし、答申を熟読されることを薦めて稿を閉じることとする。

中学校英語の指導の充実に向けて

東京都教育庁指導部義務教育指導課 統括指導主事 中谷 愛

平成28年12月に中央教育審議会より示された、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」では、現行の外国語活動及び外国語科の学習指導要領における指導上の課題が明らかになりました。

- 学校種間の接続が不十分
- 文法・語彙等の知識がどれだけ身に付いたかという点に重点が置かれた授業
- 習得した知識や経験を生かし、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に
応じて適切に表現することなどに課題（意味のある文脈の中でコミュニケーションを通して繰り返し触れることができるようにする必要がある）

これらの課題を踏まえ、今後の中学校英語の授業改善に向けて、具体的な取組を行っていくことが望まれると思います。以下に例を挙げます。

- （例1）地域の小学校の先生と情報交換を行い、外国語活動で扱われている語彙や表現を把握するとともに、調査等を通して児童の外国語学習への意識を把握し、中学校1年生のスタートカリキュラムを作成・実施する。
- （例2）生徒が意味のある文脈の中でコミュニケーションができているかどうか、これまでに設定してきた活動を見直すとともに、生徒が習得した知識を生かしながら適切に表現できることを目指した1単位時間の授業の構成を考え、実施する。
- （例3）学力調査等で明らかになった定着が図られていない文法・語彙について、生徒一人一人が発話できる言語活動を帯活動で設ける。

今年度、東京都教育委員会では、上記の例2に着目し、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等を明確にした活動を展開しながら生徒が着実に表現力を身に付けられる学習過程を紹介するため、「1単位時間の授業スタイル公開授業」を実施しました。

< 1単位時間の授業スタイル（例） >

1

- 本時の目標を確かめる。
- 既習の知識を活用しながら概要を聞き取る。

2

- 多くの英文例に繰り返し触れる。
- ピクチャーカードが示す場面や対話の内容を表す語句や英文を言うことで意味を理解する。

3

- 新出表現を使って対話を行う。
- コミュニケーションツールとしての英語を意識する。

4

- 本時の目標を再確認し、自分の学習について振り返る。
- 学習した表現についての理解や活動状況について振り返り、自己評価する。

この学習過程を具体化した3年生の「日本文化紹介」をテーマにした1単位時間の授業の一部を紹介します（平成28年10月5日に行われた武蔵野市立第一中学校坪田主任教諭による「1単位時間の授業スタイル公開授業」）。
接触節による後置修飾を理解し、後置修飾を含む文を表現することができることをねらいにしています。

| 学習活動 | |
|------|---|
| | 帯活動等（省略） |
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を確かめる。 →「ALTに英語で日本文化を説明できるようになる。」 接触節を使った英文を含むヒントを聞き、クイズに答える。 (例) Question 1（七夕について） Hint 1 : It is an event we have in summer. Hint 2 : It is also called the Star Festival. Hint 3 : It comes from a very old Chinese story. |
| 2 | <ul style="list-style-type: none"> どのような表現が使われていたかを確認する。 新出表現を見てその表現の機能や文の成り立ちを考える。 (例) OK, now let's check what I said. Remember the quiz. What did I say? It is an event... we have in... summer. どんな意味になる？ パターンプラクティスで多くの英文例に繰り返し触れる。 (例) 行事：七五三 → It is an event we have in fall. 食べ物：すし → It is a traditional Japanese food many people like. 人物：坂本龍馬 → He is a person many people respect. |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> 本時の新出表現を使ってペアで対話を行う。 「ひな祭り」「お中元」「浴衣」などの日本文化を1人が説明し、もう1人が答えていく（2分程度で交代）。 ペアを替えて、練習を行う（3回程度）。 (予想される生徒の発話例) <ul style="list-style-type: none"> It is an event (that) we have in autumn. The moon is full on that night. Many people eat dango then. ペアでどのような英文を使ったか全体で共有する。 |
| 4 | <ul style="list-style-type: none"> 接触節について再確認するとともに、学習した表現についての理解や活動状況について振り返り、自己評価を行う。 |
| | あいさつ等（省略） |

公開授業では、生徒は、ペアを替えながら活動を積み重ねることで、表現の幅を増やし、一つ一つの日本文化についての説明がより詳しくなっていました。伝える相手がALTであることを意識するようアドバイスを受けた生徒たちは、日本文化を知らない方にどのような情報を伝えるべきかを考え、既習の英語をフル活用しながら取り組む姿がありました。このような授業を、今後は小学校の先生方にも見ていただきながら、英語を使える東京都の子供たちを育てることを指導者間で共通理解し、各学年で何ができるようにするかを明確にして指導に当たることができるようにしていければよいと思います。

東京都教職員研修センターにおける
外国語（英語）に関する研修について

東京都教職員研修センター 指導主事 市川 拓治

平成28年度の中学校外国語（英語）に関する専門性向上研修について

＜専門性向上研修 外国語活動Ⅱ＞

「教科化を見据えた外国語活動の指導法（理論）」（全2回）

○ね ら い…教科化を見据えた外国語活動の指導法を理解し、授業づくりの具体的な展開について学び、外国語活動の指導力の向上を図る。

○第1、2回講師…文部科学省初等中等教育局 教科調査官 直山 木綿子 先生
玉川大学大学院教授 佐藤 久美子 先生

「教科化を見据えた外国語活動の指導法（実践）」（全2回）

○ね ら い…教科化を見据えた外国語活動の指導法について、模擬授業などを通して学び、外国語活動の指導力の向上を図る。

○第1、2回講師…文教大学 教授 金森 強 先生
都内公立学校教員

＜専門性向上研修 英語Ⅰ＞

「授業づくりの基礎・基本（中学校）」（中学校）（全3回）

○ね ら い…中学校学習指導要領の目標及び内容等を理解し、中学校における基本的な授業展開や指導方法、学習評価について学ぶ。

○第1、2回講師…東京家政大学 教授 太田 洋 先生
新潟大学 教授 松沢 伸二 先生

＜専門性向上研修 英語Ⅱ＞

「4技能を育成する授業づくり（中学校・理論）」（全2回）

○ね ら い…4技能を育成する指導法や授業づくりの理論について学び、中学校英語の指導力の向上を図る。

○第1、2回講師…国立教育政策研究所 教育課程調査官 平木 裕 先生
東京都教育庁指導部義務教育指導課 統括指導主事 中谷 愛
玉川大学 教授 日臺 滋之 先生

「4技能を育成する授業づくり（中学校・実践）」【津田塾大学との連携講座】（全2回）

○ね ら い…4技能を育成する指導法や授業づくりについて、実践を通して学び、中学校英語の指導力の向上を図る。

○第1、2回講師…津田塾大学オープンスクールネイティブ講師
都内公立学校校長

「今日的課題と指導の在り方（中学校・理論）」【上智大学との連携講座】（全2回）

○ね ら い…中学校における英語教育の今日的な課題とこれからの指導の在り方について理解し、小学校や高等学校との円滑な接続を図る指導について学び、中学校英語の指導力の向上を図る。

○第1、2回講師…上智大学 特任教授 吉田 研作 先生

「今日的課題と指導の在り方（中学校・実践）」（全2回）

○ね ら い…中学校における授業づくりの課題解釈について、模擬授業等を通じて学び、中学校英語の指導力の向上を図る。

○第1回実践発表者…都内公立学校教員

＜専門性向上研修 英語Ⅲ＞

「ALT等を活用した授業（中学校）」

○ね ら い…中学校における効果的なネイティブ・スピーカーの活用や授業の工夫などについて学び、英語教育を推進する力を高める

○第1回講師…文教大学 教授 阿野 幸一 先生

「TESOL等を用いた英語の授業のねらいと実践（中学校）」（全2回）

○ね ら い…海外派遣者の実践報告等を通して、TESOL等の指導方法を学び、英語教育を推進する力を高める。

○第1回講師…上智大学 教授 和泉 伸一 先生

東京都教育庁指導部指導企画課 統括指導主事 窪田 香

○第1回実践発表者…都内公立学校教員

「英語教育推進リーダー中央研修還元研修」

○ね ら い…最新の指導理論や方法について研修することにより、東京都における英語教育を推進する力を高める。

「外部専門機関と連携した英語力向上のための教員研修」

○ね ら い…英語によるコミュニケーション能力の向上を図り、英語教育を推進する力を高める。

＜専門性向上研修（英語力向上研修） 英語Ⅲ＞

「英語力向上集中講座（中学校）」

○ね ら い…外国人講師等と3日間、集中的に英語に浸り、ディスカッション等を経験する中でスピーキング力を高める。

「英語カフェテリア講座（中学校）」

○ね ら い…事前、事後の英語力測定、外国人講師等との英会話等を通して、生徒の学習モデルとなる自信を付ける。

「英検準1級取得支援講座（中学校）」

○ね ら い…英語検定試験準1級を取得することを目標として、英語力を高める。

「英検1級取得支援講座（中学校）」

○ね ら い…英語検定試験1級を取得することを目標として、英語力を高める。

平成29年度の研修内容は、「平成29年度研修案内」を御覧ください。



英語劇 “Jimmy Valentine”

都立両国高等学校附属中学校 主任教諭 鈴木 悟

2006年から10年間続いてきた本校の英語劇は、大きな転機を迎えていた。これまで本校の教諭が制作したオリジナルの脚本を使用していたが、今年度は生徒自身に脚本を選ばせることに方針転換したからだ。5月英語劇の台本選定が始まった。中3の30名ほどの有志が参加した。最終的に今回の劇「Jimmy Valentine」に決まるまで、生徒たちは議論を重ねた。今思えば、ここでの議論があったからこそ素晴らしい作品に出会えたのだ。

本校には英語部がないため、毎年1学期末に英語劇参加者を募集する。部活を引退した中3が多く参加してくれることを期待していたが、役者も裏方も下級生が大半を占めた。例年、本校の英語劇は、中3の演出担当生徒が指導の中心となる。今年も8月下旬から練習を始め、9月中旬の文化祭、10月下旬の区大会、そして12月の都大会で発表する。文化祭が終わり10月下旬の区大会に向けて修正点を確認した後、練習再開直前に思わぬ事態が発生した。2年生が部活動に専念するため大量に辞め、主要な役になるベン・ブルース役も急遽変更になった。役者の大幅な配置転換を迫られ、ゼロからのスタートになったが、区大会をなんとか乗り切った。都大会に向けては、昨年度までの大会の反省を活かして台本を構成し直し、声の大きさ、発音等を一から見直した。一番の難題は、区大会まで40分で披露したこの劇を、都大会の規定に合わせて20分に再構成して発表することだった。Jimmy Valentineの劇は多くの人を知る演目の1つである。観客も過去のJimmy Valentineと比べる。だからこそ20分の規定の中でも「金庫がすぐに開けられない危機的な状況」「ジミーやベン・ブルースの苦悩や葛藤」などを丁寧に表現できるかが、観客の心を動かす鍵となる。登場人物の性格を設定して、セリフのない役者も含め表情や一挙手一投足、台詞の言い回し方など皆で1つ1つの意味を考え試行錯誤を重ね修正した。最後に観客を楽しませる視点も忘れなかった。この役者と裏方の日々の努力が評価されて優勝につながったと自負している。

都大会に参加させていただくたびに、他校の英語劇から大きな刺激を受ける。今年は日本文学を生徒自身で英語の脚本に書き直して話し合いながら劇を作り上げた学校もあった。本校もそれに学び、来年度は新たな英語劇を創造していきたい。

練習過程でも生徒は多くの事を学ぶ。下級生も自由に意見が出し合える雰囲気作りは、舞台上でのチームワークを生み出すだけでなく、次年度の活動につなげるためには欠かせない。担当教師が代わっても、生徒の主体性とチームの一体感が後輩へと受けつがれていくことで、その学校に英語劇という伝統を築いていける。

最後に都中英研の先生方、本大会に携わって頂いた皆様に心より感謝を申し上げます。閉会式後に「お疲れ様でした！」と優勝を逃して悔しい思いをしていたはずの他校の生徒たちが、私に清々しく声をかけてくれた。それが何より嬉しい。

生徒の自己表現に寄り添う

世田谷区立用賀中学校 教諭 山本 真夕子 田中 美穂

まず始めに、東京都中学校英語学芸大会を運営して下さった先生方、関係者の皆様
に感謝を申し上げたい。世田谷区では、毎年スピーチコンテストを開催しているが、本
校の吉成真梨菜さんは、「自身の体験や考えを英語で伝えることにチャレンジしたい」
と区のスピーチコンテストに向けて夏休み前から原稿を準備し、学校や家庭で練習を重
ねてきた。その結果、見事に優勝し、今回の全都の英語学芸大会に参加することが出来
たのであるが、このようなハイレベルな大会に出場させていただき、さらに優勝するこ
とが出来たことは、彼女にとってすばらしい経験であると共に、今後の英語学習におい
て大きな自信となったと思う。

吉成さんのスピーチは、実体験から日々感じていることを英語で表現したものである。
彼女のお母様はイラン出身で、彼女は「ハーフ」であるということから、周囲からは「当
然英語が得意である」と見られがちだった。しかし、彼女自身は英語に苦手意識をもっ
ていた。英語に興味がなかったわけではない。むしろ、お母様の友だちは外国の方が多
く、その人たちとコミュニケーションが取れたらいいなという思いは常にあった。その
環境が故に、英語の必要性も十分に感じていた。だからこそ、彼女の英語学習に対する
意識は非常に高く、コツコツと努力を重ねていた。彼女が2年生だった昨年、私たちは
音読の重要性を生徒たちに伝え、教科書本文をすべてスムーズに読めるよう、また、暗
記できるのであれば暗記するように指導していた。多くの生徒が読みや暗記にチャレン
ジしたが、最終的に彼女だけが教科書本文のすべてを暗記したのである。その努力は計
り知れない。学校の部活動以外にも、ダンスやギターなど学校外での活動も精力的に行
っており、時間的にも決して余裕があったわけではないと思う。しかし、彼女の「英語
でコミュニケーションが出来る人になりたい」という強い思いが、英語学習を継続させ、
確実にレベルアップを図ってきた。

原稿ができあがってからも、本校 ALT と毎日練習を重ねていた。わずかな昼休みも
忘れずに練習に来て、一番意欲的であった。やはりその小さな積み重ねが、今回のよう
な大きな成果につながったと確信している。そして英語科の教員として、日々の授業に
おいて、コミュニケーションに重点を置いた授業と共に、「読むこと」や「書くこと」を、
おろそかにしない授業をしていかなければならないと改めて感じた。吉成さんにとって
大きな経験と成果を与えてもらった機会であったが、我々教員もまた、大きな経験とこ
れからの課題を与えてもらったことに感謝している。

最後に、改めてこの大会の運営に関わる方々に感謝を申し上げる。

1分間継続して 会話を続けるための指導の工夫

東京都教育委員会

1 研究主題設定の理由

本研究では、研究主題を「1分間継続して会話を続けるための指導の工夫」と設定した。「会話を継続する」とは、生徒が互いにつなぎ言葉を適切に用いながら、相手に質問をしたり自分の意見を述べたりすることで、内容に一貫性のある会話を一定時間継続することを指す。この主題を設定した理由は、第一に、会話を継続する力が実践的な外国語運用能力の一つとして社会で求められていること、第二に、生徒の実態や中学校の外国語教育の現状において表現の能力の育成が大きな課題となっていることである。

第一の理由は、訪日外客数の増加や「次期学習指導要領に向けたこれまでの審議の取りまとめについて」（文部科学省 2016年8月26日）の中で触れられている CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）の考え方を根拠としている。第二の理由は、「平成27年度『児童・生徒の学力向上を図るための調査（中学校）』（東京都教育委員会）における「外国語表現の能力」の正答率や「平成27年度英語力調査結果」（文部科学省 平成28年3月）、中学校学習指導要領解説外国語編（平成20年9月）の「話すこと」に関わる言語活動の取扱いの記述から導かれる内容である。

以上の理由から、会話を継続するための力を育成する言語活動を充実させることで、生徒の表現力を向上させ、これからのグローバル社会の中でたくましく生き抜き社会に貢献していける人材の育成につなげることができると考え、表題の研究主題を設定した。

2 研究の視点

本研究では、「1分間継続して会話を続ける」ために必要とされる要素を次の三つに整理した。「(1) 相手の発言を受ける」、「(2) 相手の発言に対し自分の意見や感想を述べ会話を広げる」、「(3) 話の流れに沿った別の質問を返す」（以下「受ける」「広げる」「返す」という。）である。これらの力を養うために、「帯活動としての Q&A」と「教科書の内容に関する質問を作成する活動及び意見・感想を述べる活動」を並行して行った。また、Q&A を帯活動として継続的に行うことにより質問に対する応答の速度の向上を図った。繰り返し練習を行うことで、学習した表現を定着させ、相づち表現や定型表現等を反射的に発話できるように指導した。あわせて、一人でも多くの英語科教員が共有できるように、活動と手順を簡略化し、汎用性のある教材の開発を目指した。

3 研究方法

本研究では、「会話の継続」を研究主題のキーワードとし、汎用性のある指導の工夫や活動の実践を目指した。生徒が1分間継続して会話を続けることができることをねらいとして「トピック・チャット」と呼ばれる活動（決められたテーマに関して1分間英語で会話する活動）を設定し、「トピック・チャット」に必要とされる三つのスキル（「受ける」「広げる」「返す」）を育てるために、「帯活動」と「教科書を用いた活動」を通じ

て以下の指導を行った。

(1)「受ける」(ペア活動において相手の発言に対し適切に応答すること)

「受ける」力を定着させるために Q&A シートを用いて、1 分間の一問一答のペア活動を本研究員全ての学校で帯活動として実施した。Q&A シートの裏面には、教科書や「平成 27 年度教育研究員研究報告書(中学校外国語部会)」を参考にした表現集を載せ、会話練習の際に適切に使用させ、会話を継続させる補助とした。

(2)「広げる」(ペア活動において相手の発言を受け、それに関する意見や感想を伝えること)

ア 質問に対して、“yes/no”の応答だけでなく、自分の意見や気持ちなどを 1 文加えたり、教科書本文にオリジナルの 1 文を加えたりさせた。

イ 教科書本文の内容を自分自身のことに置き換えて、オリジナルの文を作らせ発表させた。

(3)「返す」(ペア活動において相手の発言を受け、それに関する質問をすること)

ア 教科書のピクチャーカードを見て質問を考える。

イ 教科書中の文が答えになるように質問を考える。

ウ 指定した回数の質問をして、(教科書本文に関係の)ある物が何かを当てる。

エ 与えられた答え(語彙や表現)を引き出すための質問を考える。

評価方法については、本研究で開発した記録用紙により実践を評価、記録し、量的・質的な表現力の向上について生徒の変容を見取った。具体的には、次の通りである。① 教員による記録用紙の評価。記録用紙に記録された会話を継続するために質問した回数と「広げる」ために意見や感想を述べた回数を集計し、表現の量的変化を把握した。② 習熟度別に生徒を無作為に数名抽出し、会話の内容を記録することによって表現の質的变化を把握した。また、記録用紙に記述された「言いたかったけれど言えなかった」表現がどのように変容したかを見取った。

4 研究の成果と課題

(1) 研究の成果

ア Q&A シート、会話を継続するための表現集、教科書を用いた活動の開発・実践
「会話を継続する力」を養うための準備段階として、Q&A シートを開発した。本研究では、生徒がより会話を継続することができるように、話題に即した疑問文を与えることで会話の切り出し方を示した。帯活動として継続的に Q&A シートを活用することにより、会話の糸口になる相手への質問ができるようになることを目指した。この活動を通して、「トピック・チャット」に必要な三つのスキルのうち、「受ける」と「返す」の練習を行うことができた。

練習開始前は、“Um…”、“Well…”、“Really?”等の短い表現であっても、「トピック・チャット」で使用できる生徒は 1 年生で平均 1 割程度であったが、「Topic Chat のための表現集」を活用するように促し、練習を重ねた結果、これらの表現を使用できる生徒が平均 6 割程度まで増えた。

教科書本文の導入の際、教師によるオーラル・イントロダクションよりも、生徒の思考力・判断力・表現力の向上を図るために、オーラル・インタラクションの形式を採用した。その結果、教科書本文の内容を推測したり、既習事項を使って質問を発信しようとしたりする意識が高まった。

イ 「トピック・チャット」、「評価、記録用紙」の開発と実践

扱う話題について生徒の実態等を考慮しながら、1 分間の「トピック・チャット」

を継続的に行った。本研究では1分間の会話を継続させるためにどれだけ多く質問を投げかけることができたかに注目した。「質問」と「相づち等それ以外の発話」を分け、それぞれに応じて基石等をペアで取り合うことで発話量と内容の質の可視化を図った。結果的として会話の継続を促すことにつながった。

また、生徒自らの振り返りや教師によるフィードバックのために「評価、記録用紙」を開発した。「トピック・チャット」の実践において「言いたかったけれど言えなかった」表現を書き留めさせることで、自ら調べたり教師に質問したりするなど、学習意欲を喚起することができた。

ウ 「会話を継続する力」の高まり

Q&A シートを活用した帯活動、教科書本文を活用した言語活動、そして「トピック・チャット」を継続的に実践することにより、会話を継続させるために必要な三つのスキルにおいて伸長が見られた。

(2) 研究の課題

ア 変容の見取り方

机間指導だけでは全ての生徒の会話が実際にどのように行われているかを逐一見取ることができない。生徒の変容を見取るには、ある程度言語活動を行った後に教師によるインタビューテストを行ったり、会話を録音したりする必要がある。

イ 会話の内容の深まりと広がり

本研究では会話の可視化のために基石等の取り合いを行わせたが、会話中は表現することに集中するので、「質問」か「それ以外」かに応じた基石等が取れるようになるまでには時間を要した。

1分間のうちにどれだけ多くの質問をすることができるかに重きを置いたことにより、相手の発言を受けなくても対話が成立してしまう状況が見られた。つまり、質問を用意した上で相手の発言を待つような状況が生まれた。会話の内容に深まりをもたせる手段として、会話を切り出すための1文と最後の1文を設定し、どのように会話を進めていけば最後の1文を発することができるかを考えさせながらやり取りをさせることなどが、改善策として考えられる。

会話を継続するために必要な三つのスキル「受ける」「広げる」「返す」のうち、特に生徒が難しさを感じるのが「広げる」であった。より実際の場面に近い即興での会話においては、内容に関連した自分の意見や気持ちについて表現する手段として、相手に聞き返したりパラフレーズしたりする力を育成する必要がある。普段の授業内容の中に、Q&A シートを活用した言語活動や「トピック・チャット」のような活動を取り入れると共に、既存の知識を活用する表現、聞き返す表現など、慣用表現を使用する機会を多く設定していくことが課題である。

即興でスピーチができるようになるための 学習到達目標の設定と段階的な指導

東京都教育委員会

1 研究主題設定の理由

文部科学省が平成 27 年 6 月に策定した「生徒の英語力向上推進プラン」では、生徒の英語 4 技能によるコミュニケーション能力の着実な向上を目指し、「英語を使って何ができるようになるか」という観点から、主体的に学ぶ意欲・態度の育成も含めた具体的な学習到達目標の設定や、それに基づく指導と学習評価の実施の重要性があらためて示されたところである。

しかし、平成 27 年度に全国の中学 3 年生 6 万人を対象に実施された「英語教育改善のための英語力調査」の結果分析からは、4 技能の中でも「話す」、「書く」の言語活動が十分に行われていないことが課題として指摘されている。特に、「与えられた話題について、即興で話す活動をしていたか」という質問に対しては、「していた」と答えた生徒の割合は 5 割以下であることが明らかになった。

このことを踏まえ、本研究では、次期学習指導要領に向けて中教審教育課程部会外国語ワーキンググループで示された「話すこと（発表）」の指標形式の目標（イメージ）に関連して、中学校の生徒が即興でスピーチができるようにすることを目標とした指導の在り方を明らかにすることとした。

2 研究の内容

「即興で話すこと」について理想とする発話イメージを 1 学年末、2 学年末、卒業時の 3 段階に分けて検討するとともに、発話イメージを実現できるようにするために、学習到達目標を設定した。本研究開発委員が所属する学校の中学 2 学年生徒を対象に実施した第 1 回意識調査の回答を分析した結果から明らかになった課題を解決するため、「(1) 生徒が、即興による発表時に既習事項を思い出すことができるよう、ペアワークやグループワークを通して、それらの表現を繰り返し使って定着を図る機会をつくる」「(2) 生徒が、与えられたテーマについて、様々な表現を使ってつながりのある内容を伝えることを意識して発話する機会を、継続的に設定する」「(3) 生徒が、学習到達目標を意識しながら学習に取り組み、自身の学習の状況を振り返る機会をつくる」の 3 点を踏まえ、設定した学習到達目標を達成するために継続的に実施する帯学習における具体的な活動及び活動過程を考え、「帯学習モデル」を作成した。

＜理想とする発話イメージを基に作成した「話すこと（発表）」についての学習到達目標＞

| 2 学年末 |
|--|
| 自分の好きなものと好きな人について、それぞれ 5 文以上で話すことができる。 |
| 将来したいこととその理由を話すことができる。 |
| 自分の住んでいる町にあるものを話すことができる。 |

<帯学習モデル>

| | | 指導時期及び指導内容例等 | |
|-----|----------|--|--|
| I | | 年度当初に2学年学習到達目標の共有（第1回意識調査） | |
| II | 現在形が既習事項 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> テニスをしている少年の絵 </div> <p>テニスの話題に関連した Q & A</p> <p>Q Do you like tennis? A Yes, I do. I play tennis after school. No, I don't. I like volleyball.</p> | <p>Picture Describing<発話例></p> <p>This is ○○. He plays tennis every day. His favorite tennis player is ○○.</p> |
| III | 過去形が既習事項 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 音楽を聴いている少女の絵 昨日のカレンダー </div> <p>音楽の話題に関連した Q & A</p> <p>Q Do you often listen to music? A Yes, I do. I like pop music. No, I don't. I never listen to it.</p> <p>昨日の話題に関連した Q & A</p> <p>Q What did you do yesterday? A I went to the library. I read a magazine.</p> | <p>Picture Describing<発話例></p> <p>This is ○○. She likes music. Yesterday she listened to music. Her favorite singer is ○○.</p> |
| IV | | <p>ミニ即興スピーチ「自己紹介①」<発話例></p> <p>Hello. My name is ○○. I like tennis. I play tennis every day. My favorite tennis player is ○○.</p> <p>レポーターティング<発話例></p> <p>My partner is ○○. She likes tennis. She plays tennis every day. Her favorite tennis player is ○○.</p> | |
| V | 不定詞が既習事項 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 医者になりたいと考えている少女の絵 </div> <p>将来の話題に関連した Q & A</p> <p>Q What do you want to do in the future? A I want to play tennis. I want to be a professional tennis player. I want to help sick people. I want to be a doctor, too.</p> | <p>Picture Describing<発話例></p> <p>This is ○○. She wants to be a doctor. She likes to help people. She studies very hard.</p> |
| VI | 動名詞が既習事項 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 野球の試合を見ている少年の絵 </div> <p>日常の話題に関連した Q & A</p> <p>Q What do you like to do in your free time? A I like to listen to music. I like playing the piano, too. I like to go to museums. I enjoy looking at pictures.</p> | <p>Picture Describing<発話例></p> <p>This is ○○. He likes to watch baseball games. He often goes to a stadium with his brother. He enjoys watching the games there.</p> |
| VII | | <p>ミニ即興スピーチ「自己紹介②」<発話例></p> <p>Hello. My name is ○○. I like music. I like listening to music. I play the trumpet in the school band, and I try to play it well.</p> <p>レポーターティング<発話例></p> <p>My partner is ○○. He likes music. He likes listening to music. He plays the trumpet. He tries to play it well.</p> | |

| | | | |
|------|---|--|--|
| VIII | There is/ are ～.が 既習事項 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> テニスコートが ある公園 </div> <p>日常の話題に関連した Q & A</p> <p>Q Where do you live? A I live in ○○. It's a nice place. Q What do you like to do there? A I like to play tennis. There is a big park near my house. Q Are there any good restaurants near there? A No, but there is a beautiful garden. You can enjoy seeing many flowers there.</p> | Picture Describing<発話例> This is ○○. There is a big park. ○○ can play tennis there. He / She often goes there and plays tennis. |
| IX | ミニ即興スピーチ「自己紹介③」<発話例> Hello. My name is ○○. I'm going to talk about my town. I live in ○○. It has an airport, and there are a lot of hotels in it. In 2020, many people will visit my town. I'm very excited. レポーティング<発話例> My partner is ○○. He lives in ○○. It has an airport, and there are a lot of hotels in it. In 2020, many people will visit his town. He's very excited. | | |
| X | 上記の指導終了後、2 学年学習到達目標の振り返り (第 2 回意識調査) | | |

<帯学習モデルで扱う活動一覧等>

| 活動名 | 指導手順及び活動の目的等 |
|-----------------------------|---|
| Picture Describing | 教師は、既習事項を使って表現できる絵を提示し、生徒は 30 秒程度その絵を説明するための英文を考える。30 秒後、生徒は 3 文～5 文程度で説明する。絵については教科書の登場人物や事柄など、日頃から生徒が親しみのある人やものから選ぶ。この活動では、第三者について説明することが中心となり、その後に行う QandA で、自身のことを話すことに円滑につなげるための、背景知識を活性化させる活動となる。 |
| Q & A Questions and Answers | PD で扱った話題に関連して、教師が質問し、代表生徒は 2 文程度で答える。yes-no question や wh-question 等の中から生徒の実態に合わせて質問する。その後、生徒はペアになり、教師がした質問を互いに質問し合う。この活動では、自身のことを相手に伝えることが目的であり、その後に行うミニ即興スピーチで、自身のことについて一定量の英文を話すことにつなげるための土台の活動となる。 |
| ミニ即興スピーチ&レポーティング | 教師が指示したことに沿って、生徒はまず 30 秒程度で伝えたいことを整理する。その後、3 文以上で発話する。活動中、生徒は、メモなどはとらず、既習事項を総動員させながら、ペアとなった相手と口頭で伝え合う。発話後は、相手の発話内容のレポーティングを行う。このことにより、相手の発話の良いところを学び、自分の発話をよりよくすることに生かせるようにする。ペアを替えて数回行う。 |

3 研究の成果及び課題

帯学習モデルに沿った指導を行った結果、学習到達目標に対して肯定的な回答をした生徒が全体の 9 割程度となるとともに、それらの生徒が、与えられたテーマについて即興で、流暢に英語で話すことができていることなどから、一定の成果があったと考える。指導する上で、「(1) 生徒が与えられたテーマの下、既習事項を思い出しながら繰り返し発話する活動を計画・実施すること」「(2) 帯学習における活動 (毎回 15 分程度で設定) の中で、生徒は 30 秒程度で準備してからペアになり、その場で一定量の英語を話すという経験を積むこと」「(3) 教師自身が学習到達目標を意識するとともに、生徒と共有しながら指導をしていくこと」の 3 点が重要であることをあらためて確認することができた。

今後、3 学年の学習到達目標の達成につなげるためには、教師が、生徒の 2 学年までの学習経験を最大限生かしながらどのような指導ができるか、検討していく必要がある。その際、生徒の思考を広げていくために、教師の発問を工夫することがポイントになると考える。

また、「流暢さ (fluency)」がある程度達成できた段階で、「正確さ (accuracy)」をどのように指導していくかについても考えていく必要がある。そのためには、教師が年間評価計画を綿密に立てるとともに、指導と評価を一体化させる取組を充実していくことが重要であり、定期的にパフォーマンステストを計画・実施していくことも求められる。

10年目での初挑戦

～東京教師道場での学びについて～

江東区立深川第四中学校 教諭 水嶋 諒

1 始めに

今年度で教職に就き10年目になる。東京教師道場は教職歴4年目から10年目の教員を対象としている。私は教師道場を志すには遅いスタートだった。教師道場に参加するまで、自分の授業をビデオで撮影し、校内外の英語科の先生方に見ていただく機会があったが、生の授業を他校の先生方に見ていただく経験は、4年次授業研究以降ほぼなかった。「英語が好き」と言ってくれる生徒はいたが、一方で「英語嫌い」「英語の授業って、意味わからない」と言う生徒もいた。「英語嫌い」の生徒を何とかしたいと思いつつ、恥ずかしながら私は日々の多忙感を理由に、いつしか授業をこなしていくようになっていった。

「このままでは、生徒に失礼だ。何とかしなければ・・・。」向上心を失いつつある自分を変えたい思いから、私は教師道場を志した。

2 道場1年目

教師道場は、毎月部員の1人が授業研究を行う。私たちのグループでは、「単元のゴールを見据えた授業」をテーマとし、1年目の授業研究を行った。各部員の指導案検討、授業研究後の協議会でも、「単元のまとめから逆算して、日々の授業を行う」という視点を大切にしてきた。

私の所属する班では最初にリーダーの先生方が授業を見せてくださった。私は7月にグループの中で部員として最初に授業を行うことになった。

教師道場では、授業研究を実施する前に指導案の検討をメールで行う。1年目は教授、リーダーのご指導の下、部員同士で指導案を検討する。教師道場に参加する前は、「協議会で涙を流すぐらい厳しい」と先輩教員から聞いていた。確かに、同じグループの他の部員、リーダー、教授の指摘は的確であった。私自身が「この指導方法でいいのか」と自信がない点があれば指摘・指導してくださった。しかし、決してその指導は冷たく厳しいと感じるものではなかった。特にリーダーは、指導案の締め切り前日の夜遅くまで、指導案の改善についてご指導くださった。自ら望んだ教師道場とはいえ、校務で忙しい中でもリーダーと部員が助言してくれたことが何よりありがたかった。

授業研究当日は、緊張のあまり給食を食べられなくて、担任している学級の生徒から心配された。教師道場では、授業研究後の協議会は、授業を構成する6つの観点に基づいて、教授とリーダーの指導・助言のもと、部員同士で「授業の良かった点」「改善が必要な点」「改善案」を協議し合う。教師道場の研修の中で、最も学びの多い研修が、協議会であると思う。部員同士、本音で授業について意見交換をし合う中での学びは、何よりも得ることが多い。

1年目の研修を通して、私は「単元全体を見据えた指導計画の大切さ」を学んだ。

3 道場2年目

教師道場2年目は、いよいよリーダー演習が始まった。今までは部員として指導・助言を受ける立場であった。しかし、2年目からは毎回の授業研究後の協議会でリーダーの立場から協議会の進行、指導・助言を行うことになった。リーダー演習を通して、協議会の課題設定、たくさん伝えたいことがある中で聞き手に伝わりやすいアドバイスの伝え方を学んだ。

2年次は公開授業を全部員が行う。2年間の研修の集大成として、教師道場の関係者以外の先生方に授業を見ていただく。当然のことだが、私は公開授業で2年間の教師道場での学びを全て生かし、最高の授業ができたとは言えない。むしろ反省点の方が多い。しかし、2年間の研修で得た学びを生かし、教授とリーダーのご助言の下、仲間である部員とともに授業を計画し、生徒に少しでも還元できたと思う。

4 最後に

教師道場は2年間という長期間に渡って行われる研修である。1年単位の研修はあるが、2年間同じ仲間とともに学び合える機会は数少ない。私は2年間の研修を通して、3つ大きなことを学んだ。

1つ目は、授業の「大きな根幹」である。私は東京教師道場に参加するまでに、英語授業における「達人」である多くの先生方に出会い、多くの指導方法を学んできた。授業に対してミクロな視点（例えば様々な音読の方法など）を持つようになった。今振り返ると、当時の（もしかしたら今も）私は授業の「大きな根幹」を見ずに、授業の「枝葉」の部分ばかり意識していたのだと反省している。教師道場での研修を通して、私にとって「大きな根幹」を意識することを学んだ。リーダーのご助言と部員同士の学び合いから、単元計画を作成し、生徒にも配布することを実践し始めた。

2つ目は、英語授業について本音で語り合える仲間との出会いである。自分が抱えている授業の悩みは、他の部員も同じ悩みを持っていることが多かった。皆意識が高く、経験年数に関係なく、アイデアを共有し合い、多くのことを学ばせてもらった。時には、英語授業以外で仕事のことについて話し合うこともあった。

3つ目は感謝の心である。校務で多忙の中、教授、リーダー、部員の先生方から指導・助言を頂く。また、月に1回とはいえ、他校へ出張に出ることは、勤務校の先生に、授業振替などで迷惑を大きくかけることになる。また、自分が授業研究を行う場合は、勤務校の管理職の先生をはじめ、多くの教職員の方々に準備・片づけ等で協力してもらった。教師道場の研修は、たくさんの方たちに支えられ、何よりも生徒に支えられた2年間であった。

最後に、このような研修の機会を得られたことに対し、研修を企画した東京都教育委員会、快く送り出してくれた勤務校の管理職及び職員、指導をいただいた教授及びリーダー、部員に心より感謝申し上げる。教職10年目で、初めて3年間英語を教えることができ、共に成長してきた勤務校の生徒たちと、これから出会う生徒たちに、教師道場での学びを還元していきたい。

第40回 関東甲信地区中学校英語教育研究協議会 神奈川大会（報告）
グローバル化する社会で、積極的にコミュニケーションを図ろうとする生徒の育成
～受信から発信へとつながる4技能の統合的な指導の工夫～

八王子市立横川中学校 校長 佐藤 ひろみ

以下は平成28年11月18日（金）に実施された第40回関東甲信地区中学校英語教育研究協議会神奈川大会（第1分科会）に参加し、それに基づいた報告である。

1. 主題設定の理由（概要）

複雑で変化の激しい社会の中で、子どもたちは将来、様々な文化や考え方を持った人々とコミュニケーションを図り、新しい発想を持って課題を乗り越え、変化に対応していくことが求められている。

そのため次期学習指導要領の検討にあたり、新しい時代に必要となる資質・能力を、①生きて働く「知識・技能」の習得、②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」等の育成、③学びを人生や社会に活かそうとする「学びに向かう力・人間性の涵養」の3つに整理している。これらの資質・能力を育成するために「対話的な学び」「主体的な学び」「深い学び」の実現を目指している。

これからの英語教育を通して育成すべき能力を考えると、根拠に基づき自らの思いや考えを伝える力、他者や異文化を理解し尊重する力、議論や対話を通じて自分の考えを広げる力、他者と協働しながら課題を解決する力等を身に付けることが必要となっている。

そのため社会や世界へ関心を持ち、課題

や変化に対応するために、他者の意見に耳を傾け、自らの考えを英語を使って伝え、課題の解決へと向かおうとする態度の育成が求められている。そこで学習形態や学習内容等を工夫し、「聞くこと」、「読むこと」の受信から、「話すこと」、「書くこと」の発信へとつながる指導を通し、対話的な学び、主体的な学びの視点を学習活動に取り入れながら、英語で積極的にコミュニケーションを図る生徒の育成を目指して研究することとした。

2. 研究の概要 第1分科会

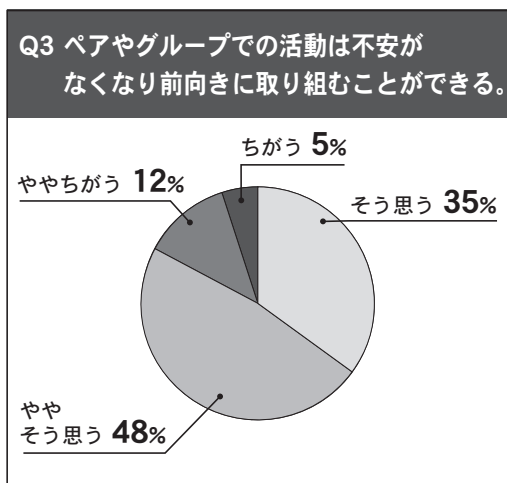
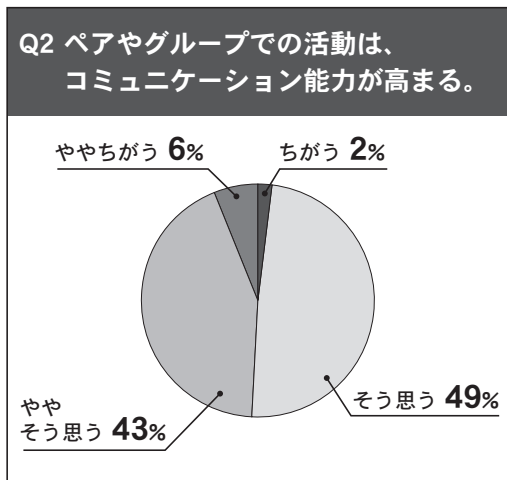
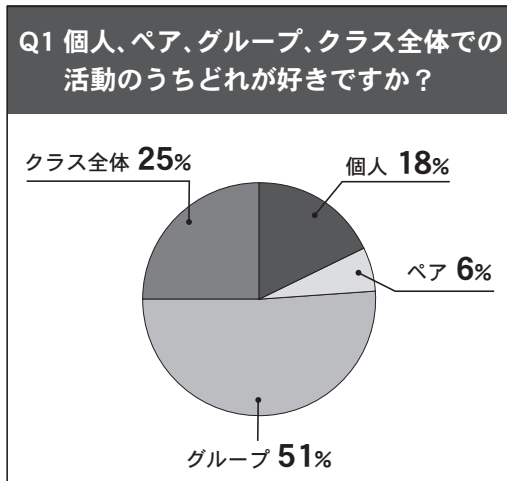
受信から発信へ ～学習形態の工夫～

第1分科会では、コミュニケーション能力を高めるために、学習形態を工夫しながら言語活動に取り組むことが有効であると考えた。他者と関わる主体的かつ協働的な学習形態によって、受信から発信へとつながる機会が増え、それによってコミュニケーション能力の育成が図られるとし研究を進めた。

そこで学習形態を個人、ペア、グループ、クラス全体として、授業の到達目標に応じてそれらの形態の組み合わせを工夫した。特にペアやグループでの活動は、コミュニケーションを通して言語を習得していかなければならない必然性を生み出し、互いに学び合おうとする前向きな態度を育成すると考え授業を通して検証してきた。

3. 検証の結果

◇アンケート結果（川崎市市内中1～中3
2067名対象によるアンケート）



◇ペアやグループでの活動に対する意見（抜粋）

- ・間違いを直せる。
- ・わからないところを質問できる。
- ・教え合ったりできる。友達が助けてくれる。
- ・意見交換ができる。意見をたくさん取り入れられる。
- ・学び合いが高まる。
- ・自信がつく。
- ・みんなで協力して班で課題をまとめたりするのが楽しい。
- ・お互いに間違いに気づかないこともある。
- ・誰かに頼ってしまう。
- ・相手とのやり取りがなかなか続かない。
- ・失敗したらどうしようと不安になる。

4. 今後に向けて（第1分科会に参加して）

次期学習指導要領では「思考力・判断力・表現力」を育むためにアクティブ・ラーニングの視点に立った「深い学び・主体的な学びの実現」が求められている。

第1分科会では「協同的な学習形態」を工夫することで、生徒たちの受信から発信へと表現力を育むための様々な工夫を提言していただいた。

今後、協働的な学習を進めていく中で、私たち教師は生徒たちに「到達目標」を示し、そこへ導いていく役割、どうしたら生徒が深く考えることができるかという仕組み作りをする役割が求められていくのではないだろうか。

総務部報告

(総務部長 刀根 武史)

本年度も全都の地区幹事および地区部長名簿を6月中に作成し、各地区に配布しました。また、関プロや全英連の大会案内については、各区市町村教育委員会にお願いし、各校に配布していただきました。

年間事業は右記の通りです。

①の定期総会は毎年5月の第二金曜日に固定し実施してきましたが、本年度は第二金曜日である5月13日ではなく、出席者の都合等を勘案し少し予定を早めて5月10日(火)の実施といたしました。第二金曜日ではない日の総会は昨年を引き続いでのことであり、次年度以降の総会の日程の調整は今後の課題となります。

総務部では都中英研各部と連絡を取り合い、当日配布する総会資料を作成しました。

総会後には東京外国語大学の根岸雅史教授から「これからの中学校での英語教育の指導と学び」という演題でご講演もいただきました。

②の全英連中学校部会は、全英連から求められた昨年度の活動状況と本年度の役員名簿を作成し、5月末までに提出いたしました。

③の都中英研、地区幹事・部長会は単に都中英研各部からの報告や各地区の活動状況についての情報交換など事務連絡、顔合わせだけではなく、毎年英語教育の今日的課題をテーマに講師の先生を招聘していま

す。今年度は、九段中等教育学校の本多敏幸指導教諭から「本文を使った統合的活動の指導方法」をテーマに具体的なご指導をいただきました。

④の関プロ神奈川大会は11月18日(金)に川崎市総合福祉センターを会場に全体会を開催しました。その後、4つの分科会に分かれて研究協議が行われました。

東京都は県外発表として第1分科会において国分寺市立第五中学校の山内晶子主任教諭に『アクティブ・ラーニングを支える学習形態の工夫～日々の授業により「深い学び」のエッセンスを～』を主題に発表をしていただきました。

さらに、指導助言者として昨年度に引き続き東京都教職員研修センターの市川拓治指導主事にお話をいただきました。お二人ともありがとうございました。

⑤の英語学芸大会は12月4日(日)に豊島区立千登世橋中学校の体育館を会場に実施されましたが、総務部でも受付等のお手伝いをいたしました。あいさつ、会場案内、司会の進行にいたるまで会の全てが英語で進められ、各地区を代表する生徒のSpeechやPlayは大変レベルが高いものでした。発表者の熱意や意欲に感心させられる一日でした。ご指導されました各顧問の先生方に心より感謝申し上げます。

【年間事業】

- ① 5月 定期総会
- ② 7月 全英連中学校部会
- ③ 8月 地区幹事・部長会
- ④ 11月 関プロ神奈川大会
- ⑤ 12月 英語学芸大会(都大会)

事業部報告

(事業部長 横山 達也)

1. 第32回授業力アップ研修会

日時：平成28年11月15日(火)

会場：千代田区立九段中等教育学校

テーマ：自立した学習者の育成を目指し、生徒が気づき、学び合う授業の工夫

授業者：高瀬 ひとみ 主任教諭

講師：田口 徹 主任教諭

(千代田区立九段中等教育学校)

九段中等教育学校では、1クラス2展開の少人数授業を実施している。クラス分けは、英語力がほぼ均一になるように行われている。また、指導案は、学年担当教員が作成し、どの英語科教員が授業をしても、同じように進めている。

研究授業は、少人数ではなく、クラス全体で行われた。復習では、前時に学習した〈enjoy + ~ing〉を使って、暇なときに楽しんでいることを3文で発表させた。教科書の音読は、さまざまな練習方法を用いて10回近く本文を読ませた。また、教科書の題材である「落語」を紹介することを課題として与え、3分間練習したあとで発表させた。生徒が使う英語の量が、非常に多い授業であった。

田口先生は、teaching planの作り方をわかりやすく説明してくださった。「なぜこの活動をここでするのか」「この活動をするためには、何をしておく必要があるか」など、研究授業の流れに沿って、解説を加えてくださった。授業の組み立てを考える上で、大変参考になった。

2. 第69回東京都中学校英語学芸大会

日時：平成28年12月4日(日)

会場：豊島区立千登世橋中学校

審査員：Ms. Kimiko Nakamura

(武蔵野大学)

Mr. Jun Kodama

(英語検定協会)

Mr. Josh Fields (ALT)

結果：Speakingの部(参加12校)

1位 吉成 真梨菜

(世田谷区立用賀中学校)

2位 住谷 晴喜

(葛飾区立青戸中学校)

特別賞 齋藤 ジェルース 愛子

(品川区立荏原平塚学園)

Playの部(参加13校)

1位 都立両国高等学校附属中学校

Jimmy Valentine

2位 千代田区立九段中等教育学校

Run, Melos, Run

3位 足立区立千寿桜堤中学校

The Prince and the Pauper

特別賞 東京学芸大学附属小金井中学校

DEN DEN MUSHI MUSHI

今年度の英語学芸大会も、レベルの高いパフォーマンスが多かった。スピーキングでは、学校生活、将来の夢、日本文化、海外の動きなど、テーマが多岐にわたっていた。英語の発音だけでなく、表情やジェスチャーもメッセージをよく伝えていた。また、プレイでは、登場人物になりきって英語を使っている生徒たちの姿が印象的であった。

今年度も、会場校の豊島区立千登世橋中学校の教職員の方々をはじめとして、多くのみなさんのお陰で開催することができた。この場を借りてお礼を申し上げたい。

調査部報告

(調査部担当副会長 五十嵐 浩子)

1 新コミュニケーションテスト報告

平成 28 年度中英研調査部の新コミュニケーションテストの実施にあたり、多くの学校にご参加いただいた。また、今年度は研究部員の所属校からの申込が多かったのもありがたいことであった。そのため、ここ数年間というものの減少傾向にあった参加者の総計が増えて、問題作成にかかる調査部員の意欲向上につながる事となった。

28 年度の実施状況は以下のとおりである。

第 1 学年 2,068 人
第 2 学年 2,962 人
第 3 学年 2,248 人
総 計 7,278 人(27 年度は 5,725 人)

【概要】

各学年の領域別結果は以下のようになっている。

<第 1 学年>

第 1 学年は、「聞くこと」の領域に絞り、30 点満点のテストである。25 年度のテスト開始からの平均点は次のようになっている。

| 28 年度 | 27 年度 | 26 年度 | 25 年度 |
|-------|-------|-------|-------|
| 24.5 | 23.9 | 24.0 | 24.0 |

<第 2 学年>

| | 文法 | 聞くこと | 書くこと | 読むこと |
|------|------|------|------|------|
| 配 点 | 30 | 20 | 30 | 20 |
| 平均点 | 22.0 | 14.0 | 19.4 | 14.2 |
| 達成率% | 73.3 | 69.9 | 64.8 | 71.0 |

<第 3 学年>

| | 文法 | 聞くこと | 書くこと | 読むこと |
|------|------|------|------|------|
| 配 点 | 30 | 20 | 30 | 20 |
| 平均点 | 19.3 | 14.4 | 12.2 | 12.2 |
| 達成率% | 64.2 | 72.0 | 40.7 | 60.9 |

「書くこと」の達成率が低い傾向は変わっていない。2 つの大問があり、与えられ

た語句を使って 2 通り以上の答えがある英作文と、与えられたテーマについて 3 文で答える自由英作文で構成している。

自由英作文では、第 2 学年は留学先での自己紹介という設定であり、第 3 学年は「理想の夏休み」というテーマで、行きたい場所ややりたいことについて書く問題である。全くの無回答もあり、普段から自己表現させることや間違いを恐れずに書く態度の育成を大切にしてほしい。

2 夏期ワークショップ

研究部等の実践を参考に 25 年度から開始した調査部夏期ワークショップは、4 回目になった。今年度も千代田区立九段中等教育学校を会場に実施することができた。

このワークショップは、テストづくりを知りたい、参加したいという意欲はあっても、期末考査で作成した問題持参を条件としているためハードルが高いと言える。しかしながら、初回から毎回参加している方、調査部員や参加者とのグループ協議や講師からの助言を得て、指導と評価の一体化に取り組む方など潜在的なニーズの高さもある。これまで、「書くこと」「聞くこと」「読むこと」とテーマを決めて実施してきた。これまで調査部が取り組んできたコミュニケーションカティブなテストづくりの手法を伝達するだけでなく、実際のテストを介した情報共有にも努めている。

これまで講師として関わってくださった、東京外国語大学大学院の根岸雅史教授に加えて、玉川大学の工藤洋路准教授もグループ協議に参加していただいた。テスト持参は確かに敷居が高い。しかしながら、こうした方々から直接テストづくりに関するご助言を受けられる機会である。ぜひ、多くの先生方にご参加いただきたい。

3 お願い

平成 29 年度の新コミュニケーションテスト参加のため、年度当初の予算計上をお願いしたい。参加費は、第 1 学年 200 円、第 2, 3 学年 280 円で、据え置き予定である。ぜひお願いしたい。

研究部報告

(研究部長 石井 亨)

1 教科書の語い数の変化

平成24年度版と平成28年度版検定教科書の「異なり語数」の比較

| | 平均異なり語数 | | 伸び率 |
|------|---------|---------|------|
| | 平成24年度版 | 平成28年度版 | |
| 中学1年 | 723 | 1,179 | 164% |
| 中学2年 | 1,035 | 1,685 | 166% |
| 中学3年 | 1,292 | 1,989 | 157% |

(参考：投野由紀夫。(2016)『英語教育2月号』)

新しい教科書では語い数が増えている。

豊かな語いを身につけることは生徒にとって大切なことであり、定着を図る指導、さらに語いサイズを広げる指導も必要になってくる。

2 研究部の研究主題

今年度は、「生徒の語いサイズを広げる指導の工夫」を研究テーマとして3年目になる。昨年度に引き続き、教科書本文に出ている単語を次の授業で復習する時に、語いサイズを広げる指導を実践した。授業での他の指導や活動も考慮して、授業中の5分前後が適当であると考えた。前時の語いの定着を形成的評価すると共に、語いサイズを広げる指導を実践研究した。部員によっては、単元のまとめとして、その単元で学習した語いを復習することも行った。これは短期記憶から長期記憶への転移をねらっている。語いサイズを広げる指導は Collocation (Idiomなども含める)、同意語、反意語、上位語、下位語、品詞変化、接辞、語尾変化 (Inflection) など多岐にわたり、そのために辞書指導は有効である。またサイトで調べる方法も行った。どのよ

うな語いを広げたかについて、新しい教科書用のリストを作成した。さらに、生徒の語いサイズの広がり確認できたoutput活動とその指導についての実践研究を行った。

授業での実践例の1つとして以下のような指導がある。

- ① (前時に学習した語いの) 単語カードの日本語を生徒に見せる。(例) 借りる
 - ・教師は発音せず、生徒に発音させ、どの程度定着したかを掴む。
 - (例) borrow
 - ・生徒の反応を見て、復習の必要のない語は復習しない。
 - ・復習の必要のない語いは提示しない。
 - (例) 題材語(教科書にすでに意味の提示してある語) (例) Korean
 - ・声が小さかったり、反応が遅かったりしたら、その語を教師が発音し、繰り返させる。
 - ・その後、誰か1人を指名し、正しい発音をしているか、発音させ確認する。
- ② “Spell it in the air.” と言って、空中に綴りを書かせる。全員が空中に書いているかを見る。慣れてきたら、Hand signで素早く行う。
- ③ 単語カードの英語を生徒に見せる。(例) borrow
 - 綴りが合っていた生徒に手を挙げさせる。間違った生徒には、綴りのどこを間違えたかを聞く。その間違いがPhonicsに関係している場合は再度詳しく指導する。
- ④ 語いサイズを広げるために、反意語、同意語などを言わせてみる。どの語についてどのように語いを広げるかを事前に教材研究しておく。(例) T: What is the opposite word of borrow?
 - Ss: lend
 - 単語を引き出すためのキューをあらかじめ

じめ決めておくとよい。

⑤単元が終わったら、その単元で学習した新語を復習する。

語いサイズを広げるために、再度①～

④のような活動を行う。今までの指導により生徒に定着していると判断した語は除く。

3 実際に広げた語いの例

() は各教科書使用語いの合計

例 (5) は5社で使用された語い

(引用「中学校で学ぶ英単語」開隆堂)

Same (6)

the same as different from similar to

Save (6)

help

School(6)

elementary school junior high school

high school

Season (6)

spring summer fall winter

Sister (6)

father mother brother cousin

grandfather grandmother

grandchild

great-grandfather uncle aunt

nephew niece brother-in-law

4 第14回夏の語い指導ワークショップ

研究部員が講師として、授業で実践した内容を紹介した。今年度も以下の3回を実施した。合計194人の参加があった。今回は若い教員とベテラン教員の参加が多かった。

第1回8月2日(火)

千代田区立九段中等教育学校

講師1:佐藤 優

(多摩市立鶴牧中学校)

「音とりズム、ジェスチャーを使った

語い指導(1年)」

講師2:古川 悟

(品川区立荏原第六中学校)

「ゴールからの逆算でつくる日々の授業

～1年1学期「自己紹介スピーチ」をめざして～」

講師3:上尾 栄美子

(足立区立第五中学校)

「1年の辞書指導～授業でどのように辞書を使わせるか～」

第2回8月10日(水)

世田谷区立三宿中学校

講師1:太田 裕也

(八王子市立第六中学校)

「教科書の語いに6回ふれる指導(2年)」

講師2:福田 真希子

(江戸川区立鹿本中学校)

「アウトプットをめざす語い指導(3年)」

講師3:水嶋 諒

(江東区立深川第四中学校)

「日々の授業での語い指導(3年)」

第3回8月18日(木)

中野区立中野中学校

講師1:壽原 友理子

(世田谷区立三宿中学校)

「授業で辞書を使わせる工夫(2,3年)」

講師2:福島 美記子

(杉並区立荻窪中学校)

「言いたい、伝えたい意欲を引き出し、語いを増やす活動(1,2年)」

講師3:江濱 悦子

(大田区立大森第四中学校)

「日頃の授業でどのように英語表現力を伸ばすか(3年)」

5 研究部公開授業・研究発表会

2月17日(金)八王子市立第六中学校にて同校の太田裕也部員が中学二年の授業を公開した。研究発表は前田宏美部員が行った。指導講師は神奈川大学外国語学部の久保野雅史先生をお迎えして、講演をいただいた。

6 都中英研ホームページ

1976年から約40年間の研究部冊子を載せています。ぜひご利用ください。

プロジェクトチーム部報告

(プロジェクト・チーム部長 齊藤 節子)

プロジェクトチーム部では、数年前より『グローバル化に対応すべきこれからの外国語教育～CAN-DO リストの活用～』をテーマとして研究を行っている。今年度は、部員が自校の実態に応じたCAN-DO リストを活用し、その成果と課題の明確化による指導と評価の改善を目的とした。また、研究の成果を発表する場として今年度も2回の研修会を実施した。

1回目の研修会は、参加者が教科書を使ってCAN-DO リストを作成するワークショップ形式の研修を行った。

2回目は、部員による研究授業後、講師の先生よりCAN-DO リストの効果的な活用や学習指導要領改訂に向けてなど、貴重な講義をしていただいた。

第1回 プロジェクトチーム部研修会

日 時：平成28年8月12日(金)

会 場：清瀬市生涯学習センター

講 師：太田 洋 先生

東京家政大学 教授

第2回 プロジェクトチーム部研修会

日 時：平成28年11月17日(木)

会 場：文京区立第十中学校

授業者：原田 博子 主任教諭

講 師：本多 敏幸 先生

出版部報告

(出版部長 今本 由美子)

出版部では、主に「都中英研だより」と「中英研会報」の作成・発行を担当している。今年度、計4回の部会を開催し、「都中英研だより」や「中英研会報」の編集企画会議、校正、発行作業等を行ってきた。また、第3回目の部会では、部員による授業公開と意見交換を行い、部員相互の自己研鑽にも努めた。

具体的な活動状況は以下の通りである。

○「都中英研だより」第70号

(平成28年12月19日発行)

都中英研の各部・地区幹事の活動内容についての紹介、各地区英語研究会の紹介(小金井市の取組)、夏季休業中に行われた中英研各部の研修会報告、各区市町村英語教育研究部 部長・幹事会報告、第56回大都市公立中学校 英語教育研究会連絡協議会報告等を掲載した。

○「平成28年度 中英研会報」第75号

(平成29年3月10日発行予定)

都中英研の年間活動や英語教育活動のまとめとして、「都中英研の課題」、「外国語教育の動向と今後の展望」、「中学校英語の指導の充実に向けて」、「東京都教職員研修センターにおける外国語(英語)に関する研修について」、また、英語学芸大会報告、教育研究員、研究開発委員会報告、東京教師道場報告、各研究大会報告、各地区の活動状況、中英研事業報告、各部活動報告等を掲載する予定である。

第56回 大都市公立中学校 英語教育研究会連絡協議会

横浜市大会報告

「主体的・協同的な学習活動の充実」

開催日：平成28年10月14日（金）

会場：横浜花咲ビル3F

副会長 川越 豊彦

本連絡協議会は、昭和36年に「英語指導の先進的な実践について相互に学び合い、自都市の英語教育に役立てる」ことを目的に「六大都市公立中学校英語教育研究会」として発足した。その後、政令指定都市の増加に伴い、現在は東京都及び政令指定都市の21自治体により構成されている。

第56回大会には、大阪府を加え22自治体からオブザーバー参加を含めて約70名が参加した。

開会式において、昨年度、さいたま市より提案のあった、小中高の一層の連携を踏るための本協議会の役割の再構築について、都中英研・飯島会長より東京都からの提案として次の案が示された。

○本連絡協議会と小学校英語教育研究団体との連携が促進されるように本協議会の名称を「大都市公立小・中学校英語教育研究会連絡協議会」と改正する。

この提案について協議が行われ、名称変更について了承されたが、名称変更に伴う課題等については、引き続き事務局において整理し、併せて解決策を再度、提案することが確認された。

研究協議においては、次期学習指導要領を視野に入れ、子供たちが自ら英語で考え、英語で発信することができるようになるための授業づくりについて各都市における情報交換を含め、活発な協議がなされた。続く講演では、我が国の動向だけではなく、世界の潮流を踏まえ、今進められている日本の英語教育改革について講演があった。

1 実践報告・研究協議

横浜市における外国語教育について教育委員

会、小学校、中学校から報告があった。

横浜市では平成20年に「横浜市小中学校英語教育推進プログラム」を策定し、小中9年間を見通した外国語教育を推進している。

小学校においては、外国語活動と国際理解教室からなるYICA (Yokohama International Communication Activities) により、1年生から4年生が年間20時間、5・6年生が年間35時間の学習を行っている。今回の実践報告では、特にYICAの入門期に当たる低学年の実践が報告された。小学校1年で英語劇「大きなカブ」に取り組んだ実践は、中学校においても参考にすべき点が多々あった。

中学校からは、「CAN-DOリストを活かした授業づくり」についての実践報告があった。CAN-DOリストを作成するに当たって、

- ①英語科がチームとして生徒の実態把握をし、卒業時の到達目標を共有したこと
- ②英語を使って何ができるかにより、3年間の学びのつながりが可視化できるようにリストを作成したこと
- ③CAN-DOをその内容に従って大→中→小と構造化したこと
- ④リストを教員と生徒が共有したことなどは、CAN-DOリストの作成に悩んでいる学校にとって大変参考になるであろう。

2 講演「日本の英語教育改革の意味」

(講師：吉田 研作 氏 上智大学教授)

日本を取り巻く世界の情勢、これまでの英語教育の課題、これからの時代を生きていく子供たちを育てるために英語教育が果たすべきこと、そのために英語教師が取り組むべきことなどの切り口から、現在、強力に推進されている英語教育改革について豊富なデータに基づき、お話しいただいた。

国際共通語としての英語を子供たちに身に付けさせるために、私たち英語教師が果たすべき役割を再確認できた内容であった。



第66回 全国英語教育研究団体
連合会総会

全国英語教育研究大会 山口大会
「TSUNAGARI」

全英連中学部会長 惣田 修一
(練馬区立大泉中学校)

1 大会の主題等

平成28年11月11日(金)・12日(土)の2日間、山口県において第66回全英連総会及び全国英語教育研究大会が開催された。「TSUNAGARI」を大会コンセプトとして、各校種間の連携を大切に、児童生徒と授業で扱う教材のつながりの在り方等、様々な「TSUNAGARI」を探求する。

2 総会・記念講演

(1) 期 日：11月11日(金)

会 場：山口市民会館

全英連会長 磯部 篤 校長

(都立田無高校)、大会実行委員長

尾羽根公介校長(山口県仁保中学校)

の挨拶、次期全英連会長 柄倉和則校

長(都立田柄高等学校) 就任の挨拶、

会務報告等、滞りなく行われた。

(2) 記念講演

講 師：中嶋 洋一 氏

(関西外国語大学教授)

「TSUNAGARI through

Backward Design」

①最後を想定してからことを始めよ：ゴールからの逆算で授業を組み立てる。ジグソーパズルの完成した絵を最初から同僚と共有しておくことが不可欠。

②指導したことを評価するのではなく、評価観(つけたい力)の方が先：I have studied English for 3 years, but I didn't learn anything.という文から何を考察すべきか。

③「つながる」のを待つのではなく、意図的に「つなげる」のが教師の仕事：すべての活動とテスト及び評価をつなげていくために、ゴールの具体的なイメージを明確にする。そこからの

scaffoldingが大切である。

3 授業発表

(1) 小学校授業ビデオ発表(45分)

発表者：山田 浩史 教諭

(光市立室積小学校6年生)

助言者：兼重 昇 准教授

(広島大学)

＜内容＞オーストラリアの友達に学校を紹介するという活動を通し、外国の人と交流を図る楽しさを味わうことをねらいとする。ペアやグループでの少人数での活動が中心。

(2) 中学校授業実演(50分)

実演者：野坂 良太 教諭

(周南市立住吉中学校2年生)

助言者：吉留 文男 教授

(徳山工業高等専門学校)

＜内容＞プレゼンマップを使って自分の調べた山口県について発表したり、友達の意見を聞いて質問し合ったりできるようにする。ペアやグループでの発表が中心であるが、その際、つなぎの言葉やリアクション(eye contact, gesture, smile)を大切にしていた。

(3) 高等学校授業実演(50分)

実演者：富山 貴之 教諭

(山口県立山口高等学校2年生)

助言者：高橋 俊章 教授

(山口大学)

＜内容＞宇宙探査機「はやぶさ」を題材にしたプレゼンテーション。生徒の高い表現力が生かされていた。

4 分科会

期 日：11月12日(土)

会 場：山口学芸大学

山口芸術短期大学

小学校：3分科会

中学校：11分科会

高等学校：12分科会

5 今年度の特徴

今年度の研究発表は、プレゼンテーションに力点が置かれていた。2日間で1300人を越える先生方が集まる盛大な研究大会であった。

第40回 関東甲信地区中学校 英語教育研究 神奈川大会
～発信から受信へとつながる4技能の統合的な指導の工夫～

グローバル化する社会で、 積極的にコミュニケーションと図ろうとする生徒の育成

副会長 刀根 武史

1. 期 日
平成28年11月18日（金）
2. 会 場
全体会場 川崎市総合福祉センター
第1分科会 川崎市立西中原中学校
第2分科会 同 上
第3分科会 川崎市立宮内中学校
第4分科会 川崎市立今井中学校
3. 大会日程
9：10 受付
9：40 開会行事
・基調提案
・記念講演
11：40 県内提案・研究協議
12：30 昼食・休憩
13：10 公開授業
14：15 授業研究会
15：05 県外提案・研究協議
16：20 閉会行事
4. 参加者
約470名
5. 分科会 テーマ「受信から発信へ」
 - (1) 第1分科会
「学習形態の工夫」
県外提案 群馬県、東京都
 - (2) 第2分科会
「学習内容の工夫」
県外提案 栃木県、山梨県
 - (3) 第3分科会
「話すことにつながる指導」
県外提案 長野県、茨城県
 - (4) 第4分科会
「書くことにつながる指導」
県外提案 埼玉県、千葉県
6. 公開授業
 - (1) 第1分科会 西中原中学校
授業者 西中原中学校
梅澤 有美子 教諭
指導助言 後藤 博宣 指導主事
 - (2) 第2分科会 西中原中学校
授業者 西中原中学校
齊藤 真弓 教諭
指導助言 伊藤 敏明 指導主事
 - (3) 第3分科会 宮内中学校
授業者 宮内中学校
大窪 洋次郎 教諭
指導助言 西村 秀之 指導主事
 - (4) 第4分科会 今井中学校
授業者 今井中学校
齊藤 大行 教諭
指導助言 河合 光治 指導主事
7. その他
第41回大会について
・開催地 長野県
・期 日 平成29年11月17日（金）
・全体会場 下諏訪総合文化センター

千代田区

I. 研究主題

「4技能を統合した発表活動」

II. 研究の経過

◇4月13日 一斉部会

内 容：組織作り、研究主題の設定

◇7月6日 一斉部会

内 容：4技能を統合した発表活動の
検討

会 場：麴町中学校

◇12月20日 教科部会

内 容：映像による授業研究・協議

会 場：神田一橋中学校

授業者：池田 弘平 主任教諭
(神田一橋中学校)

◇2月15日 ペスタロッチ祭

内 容：研究の報告

◇3月 教科部会

内 容：講演会

(神田一橋中学校主任教諭 池田弘平 記)

中央区

I. 研究主題

「4技能を総合的に育成する指導の工夫」

II. 研究の経過

◇4月13日

組織作り、研究主題決定

年間活動計画作成

◇4月27日 授業見学

北原 延晃 主任教諭

(港区立赤坂中学校)

◇6月8日 第1学年研究授業

授業内容：NEW CROWN 1

Lesson 2 My School

授業者：松尾 陽 教諭(銀座中)

講 師：千代田区立九段中等教育学校
本多 敏幸 先生

◇9月14日 講演会

「THE NEXT STEP

Preparing Students for English
in High School and Beyond」

講 師：明治大学 Mr. Brett Davies
スピーキングテスト検討

◇11月7日から1月20日

スピーキングテスト実施

◇11月17日 第1学年研究授業

授業内容：NEW CROWN 1

Lesson 6 My Family

授業者：大林 泰代 主任教諭

(日本橋中)

講 師：教育庁指導部義務教育指導課
中谷 愛 先生

◇2月22日

海外研修報告(UCI)

大林 泰代 主任教諭(日本橋中)

今年度の反省

(晴海中学校主幹教諭 谷口了太 記)

I. 研究主題

「コミュニケーション能力を高める指導の工夫 一 小・中学校の接続を踏まえて」を主題とし、小学校国際科研究部と連携して実践・研究を進めた。

II. 研究の経過

- ◇ 5月18日 年間計画立案、組織編成
- ◇ 6月8日 ワークショップ
「小学校との接続をふまえたColumbus 21を活用した授業」
講 師：小寺令子氏
(足立区教科指導専門員)
港区立中学校英語発表会の運営方針の確認
- ◇ 9月14日 授業研究
 - ・ 授業者：青山麻希 主任教諭
(お台場学園港陽中)
 - ・ 授業内容：第7学年A組
教科書Unit 5 A Summer Festival
6月の小寺氏による本文指導、内容理解、Q&A、重要表現指導の活用を意識した授業実践と協議
- ◇ 11月9日 港区立中学校英語発表会
赤坂区民センターで、スピーチ17、プレイ1を発表し、小学校国際科研究部員も参観した。赤坂中のプレイが第一位となり、都大会に出場した。
- ◇ 1月11日 実践・研究のまとめ、次年度の研究部会運営方針の確認、都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の調査結果説明会の報告
- ◇ 2月8日 港区教育研究会幼・小・中合同研究発表会
※上記の部会に加え、各校で、校内研究、アカデミー（幼・小中一貫教育の組織）ごとの研究、国際科担当者会等で、授業研究を実施し、実施内容や成果等を10校で共有し、授業改善に生かした。

(港南中学校 石川桂 記)

I. 研究主題

「コミュニケーションを図ることができる指導」

- ① 「CAN-DO リスト」の作成と活用
- ② 小学校英語活動を踏まえた連続性のある指導
- ③ ALT を効果的に活用した TT 指導

II. 研究の経過

- ◇ 5月9日 春季一斉部会
組織作り・研究テーマ・活動計画決定
- ◇ 6月16日 研究授業（西早稲田中学校）
授業者：坪田 千尋 教諭
講 師：中村 貴美子 武蔵野大学講師
[小学校英語活動を踏まえた連続性のある授業]
- ◇ 7月27日 夏季一斉部会
講 師：竹田秋人英語教育アドバイザー
[指導方法の改善と工夫
～小中連携とアクティブラーニング～]
講 師：牛込第一中学校
山口 哲治 教諭
[英語教育推進リーダーによる還元研修
7. コミュニケーションを支えるための文法]
- ◇ 8月9日
第32 宿区中学校英語学芸発表会
- ◇ 10月13日 秋季一斉部会
講 師：牛込第一中学校
山口 哲治 教諭
[英語教育推進リーダーによる還元研修
8. 『聞くこと』に係る言語活動]
- ◇ 11月13日 研究授業（牛込第三中学校）
授業者：長谷川 貴明 教諭
講 師：和泉 伸一 上智大学教授
[「CAN-DO リスト」の作成と活用]
- 2月2日 研究授業（落合第二中学校）
授業者：渡邊 功 主任教諭
講 師：和泉 伸一 上智大学教授
[ALT を効果的に活用した TT 指導]
(新宿中学校主任教諭 山崎美砂子 記)

文 京 区

- I. 研究主題
「ICTを効果的に使ったアクティブ・ラーニング型の授業の創出」
- II. 研究の経過
- ◇ 5月11日(一斉部会)
英語部組織作り、研究主題の決定
 - ◇ 8月25日
各区市町村英語教育研究部部長会への参加
 - ◇ 11月11日・12日
全国英語教育研究大会への参加
益子 大輔 教諭(本郷台中学校)
 - ◇ 11月15日
研究授業(音羽中学校)
授業者:我謝 博史 主任教諭
田中 誠二 教諭
単 元:3年 Lesson 5
“Stevie Wonder”(TOTAL English Book 3:学校図書)
内 容:新出文構造の練習と言語活動において、アクティブボード(電子黒板)を効果的に活用し、生徒の発話を引き出そうとする工夫がある授業であった。協議会では、電子黒板の活用に加え、少人数授業における、指導案の共有、展開方法について協議をした。
 - ◇ 1月24日 区中研英語部会
会 場:第十中学校
 - ①グループ討議
アクティブボードを活用した授業実践について、各校から報告を行った。
 - ②学年別分科会
グループ協議を踏まえ、各校よりマイクロ-ティーチング(模擬授業)形式による実践発表と指導資料の提示を行った。
 - ③情報共有(報告)
分科会での発表内容を、全体で共有した。
(第八中学校主任教諭 溪内明 記)

台 東 区

- I. 研究主題
「新学習指導要領全面実施における課題と実践」
- II. 研究の経過
- ◇ 4月11日 区中研総会・一斉部会
・組織作り、研究主題の決定等
 - ◇ 6月15日 授業研究
・東京都独自英語教材「Welcome to Tokyo」の活用について
模擬授業・研究協議会
授業者:原嶋 美佳 教諭
杉並区立天沼中学校教諭
「Welcome to Tokyo」編集委員
御徒町台東中学校
・第1回英語学芸会検討会
実施要綱案の検討
 - ◇ 9月7日 第2回英語学芸会検討会
実施要綱(細案)の検討
 - ◇ 10月5日 研究授業・研究協議会
授業者:今泉智子教諭(柏葉中学校)
単元名:Let's Talk 4「買い物しよう」
講 師:荒川 高広 先生
千代田区立九段中等教育学校
主任教諭
・第3回英語学芸会検討会
各校の分担とプログラムの確認
 - ◇ 11月5日 第64回英語学芸会
会 場:台東区生涯学習センター
ミレニアムホール
参加校:台東区立中学校全校(7校)
内 容:RECITATION(5校)
SPEECH(17名)
PLAY(忍岡中学校 ESS)
 - ◇ 11月13日 関東ブロック神奈川大会
参加者:浦田 哲男副校長(桜橋中学校)
(桜橋中学校副校長 浦田哲男 記)

墨 田 区

- I. 研究主題
「会話(話すこと)と文法(書くこと)が連動した指導の工夫」
- II. 研究の経過
- ◇4月13日 区中研総会・一斉部会
①役員選出：組織づくり
②研究主題：年間活動計画の検討
- ◇6月29日 区中研前期研究授業
①授業者：麻生 菜里 教諭
足立 直子 教諭
高橋 香織 教諭
(吾嬭立花中学校)
单元名：3年「Fair Trade Event」
協議会：「ICT機器の活用について」
- ◇8月24日 区中研英語部夏季研修会
①「効果的なアクティビティーの紹介」に係る講義及びワークショップ等
講 師：株式会社インタラックより
②「Welcome to Tokyo」について
報告者：高田 奈々 教諭
(錦糸中学校)
- ◇11月30日 区中研後期研究授業
①授業者：金子 祐見子 教諭
佐々木 伸 教諭
今田 由利子 教諭
(桜堤中学校)
单元名：1年「Rakugo in English」
協議会：区学力調査結果を踏まえ「指導のポイント」を具体化した授業であったか。
②区学力調査分析結果概要の報告
報告者：本田 耕大 教諭
(文花中学校)
③平成28年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果説明会について
報告者：堀越 亜希 教諭
(両国中学校)
- ◇2月15日 区中研 研究発表会
(すみだりバーサイドホール)
(両国中学校長 田谷至克 記)

江 東 区

- I. 研究主題
「英語スタンダードを取り入れた指導の実践と評価」
- II. 研究の経過
- ◇5月10日 区中研一斉部会
・内 容：活動計画、組織作り
- ◇6月8日 教科交流授業研究の日
・深川会場：深川第二中学校
授業者：上田広夏教諭
講 師：武藤剛主任教諭(有明中)
・城東会場：南砂中学校
授業者：福本真弓教諭
講 師：赤田 洋一 主幹教諭
(大島中)
- ◇8月4日 中英ワークショップ
(教育センター)
- ◇11月1日 江東区英語学会
・会 場：江東区文化センター
・内 容：speech, play, others
play優勝校(深川五中)が都学芸大会に出場
- ◇10月12日 教科交流授業研究の日
・深川会場：深川第三中学校
授業者：佐々木 孝紀 主任教諭
講 師：慶野 富士夫 主幹教諭
(深川四中)
・城東会場：第二大島中学校
授業者：北村 玲奈 教諭
(第二大島中)
講 師：友田 和 主幹教諭
(第二南砂中)
- ◇11月24日 区中研秋の研究集会
英語部研究発表
主題「英語スタンダードを取り入れた指導の実践」
- ◇2月4日 区中研一斉部会
・内 容：1年間のまとめ
(第二大島中学校長 金久保勝 記)

品川区

I. 研究主題

「小中一貫教育における具体的な指導の在り方」～9年間の系統性を明確にして～

II. 研究の経過

- ◇4月13日 研究テーマ、組織決定
- ◇5月11日 「Sunshineを使った英語授業の工夫」
講師：西垣 知佳子 先生
(千葉大学教授)
- ◇6月8日 研究授業
授業者：林 美希 先生 (三木小)
講師：豊田 ひろ子 先生
(東京工科大学教授)
- ◇7月6日 研究授業
授業者：前田 秋輔 先生 (荏原六中)
講師：中村 貴美子 先生
(前梅ヶ丘中学校校長)
- ◇9月7日 研究授業
授業者：芳賀 晶子 先生 (芳水小)
講師：アレン 玉井光江 先生
(青山学院大学教授)
授業者：石田 陽平 先生
(豊葉の杜学園)
講師：本田 勝久 先生
(千葉大学准教授)
- ◇10月5日 研究授業
授業者：竹田 佐和子 先生
(御殿山小)
講師：アレン 玉井光江 先生
(青山学院大学教授)
- ◇11月8日 英語学習成果発表会
- ◇12月7日 研究授業
授業者：古川 悟 先生 (荏原六中)
講師：北原 延晃 先生
(港区立赤坂中)
- ◇1月18日 「小中連携のポイント」
講師：太田 洋 先生
(東京家政大学教授)
- ◇2月15日 研究発表会
講演：「これからの英語教育」
講師：中谷 愛 先生
(教育庁指導部義務教育指導課統括指導主事)
(小山台小学校校長 柳歆子 記)

目黒区

I. 研究主題

「確かな学力を身に付けさせる指導の工夫」

II. 研究の経過

- ◇5月11日 研究目標、研究計画、
研究組織づくり
- ◇7月6日 研究授業 第八中学校
授業者：仲 教諭
「オールイングリッシュ授業と
コーパスの活用」
講師：玉川大学 日臺 滋之 先生
- ◇10月12日 研究授業 東山中学校
授業者：藤本 圭記 教諭
「授業改善に向けて」
講師：都教育委員会統括指導主事
中谷 愛 先生
- ◇11月9日 スピーチコンテスト
目黒中央中3年優勝 都大会出場
- ◇1月11日 研究授業 大鳥中学校
授業者：中西 ゆう子 教諭
「9年間を見据えた指導のあり方」
講師：玉川大学 坂下 孝憲 先生
- ◇2月1日 1年間のまとめ
小中合同研究実践発表会
講師：前大田区立道塚小学校長
山本 恵美子 先生
(まとめ)
小学校英語活動との連続を意識して、中
学校入門期の実態調査を継続し、指導に
活かした。小学校への出前授業、ALT
とのTTの情報交換も継続研究した。
コミュニカティブ、オールイングリッ
シュ授業づくり、意欲作りの切り口か
ら、授業改善について講演を聴き、各学
校の多様な工夫を共有しあった。
(大鳥中学校長 牛島順子 記)

大 田 区

I. 研究主題

「英語で簡単な情報交換ができる能力を高める指導の工夫」（2年目）

II. 研究の経過

- ◇4月13日 第1回部会（蒲田中）
部員自己紹介、組織編成、年間計画立案、部員名簿作成等
 - ◇7月4日 研究授業（馬込東中）
授業者：大海 朋子 教諭（馬込東中）
講 師：杉本 薫 主任教諭
（都立両国高等学校附属中学校）
 - ◇11月11日 連合学芸会（英語の部）
会 場：大田区民センター
発 表：スピーチ38名、プレイ4校
（都英語学芸会出場者の決定）
 - ◇12月4日 都英語学芸会
大田区の代表として、大森第十中学校 ESS CLUBが、プレイの部に出場
 - ◇2月1日 第2回部会（蒲田中）
今年度の総括及び来年度の予定
研 修：「英語教育の動向について」
「中央研修報告会」
 - ◇2月9日 研究授業（大森第六中）
授業者：茂谷 厚 教諭（大森第六中）
講 師：マーク・スインホー
（ブリティッシュ・カウンシルから派遣）
 - ◇BULLETIN -OTA English Today-
（紀要）を年間の研究記録として毎年発行している。今年度は第27号である。
- III. 今年度の部員数：97名
（蒲田中学校長 和田文宏 記）

世 田 谷 区

I. 研究主題

「4技能を統合的に指導するための授業改善
～少人数・習熟度別授業の充実及び次期学習指導要領に向けた指導の工夫に向けて～」

II. 研究の課程

- ◇5月11日 世中研修 総会（富士中）
- ◇6月8日 前期研究会：
小学校との合同研究会
授業者：小舘 健一朗 教諭
（船橋小）
講 師：小泉 清裕 校長
（昭和女子大学付属昭和小学校）
- ◇11月2日
第27回スピーチコンテスト
（成城ホール）
- ◇11月11日 研究部主催研修会
授業者：黒田 雪紀乃 教諭
実 技：タブレット総裁とデジタル教材の活用の工夫
- ◇1月20日 国公私立交流授業研究会
授業者：照井直也教諭
（世田谷区立玉川中学校）
講 師：西貝裕武統括指導主事
（足立区教育委員会）
（玉川中学校長 岩崎紀美子 記）

渋谷区

I. 研究主題

「新教科書の効果的活用とアクティブラーニングの研究」

II. 研究の経過

◇4月20日 渋谷区中英研英語部会

組織編成、研究主題、研究授業及び授業者の決定

◇8月24日 夏季研修会

内 容：「新教科書編集に関する方針・新教科書の特徴」

「アクティブラーニングを踏まえた教科書の効果的な活用法」

講 師：天池 美佐氏

(東京書籍 英語編集部
中学校英語編集長)

◇10月8日 高円宮杯第68回全日本

中学校英語弁論大会

会 場：赤坂区民ホール

参加校：松濤中学校

◇12月4日 第69回東京都中学校英語

学芸大会

会 場：豊島区立千登世橋中学校

参加校：松濤中学校

◇2月1日 一斉研究日、英語部会

1 研究授業 (代々木中学校)

授業者：小林 大地 教諭

(代々木中学校)

内 容：NEW HORIZON 1

Unit 10 Part 2

講 師：池田 武男 先生

(元杉並区立高井戸中学校長)

(鉢山中学校長 比嘉朝明 記)

中野区

I. 研究主題

「すべての生徒が生き生きと参加できる授業の工夫～小学校との連携を意識した四技能の育成～」

II. 研究の経過

◇4月18日 区教研一斉教科部会

研究主題、年間活動計画の決定

◇6月8日 研修会

講 師：大庭 裕

東京都小学校英語活動研究会

顧問

講演内容：「評価の研究（ワークショップ）と外国語活動・英語教育今後の動向」

◇10月12日 研究授業

授業者：黒澤 敬 教諭

会 場：第四中学校

内 容：Sunshine English

Course 1

教 材：Program 6 由紀のイギリス旅行

◇10月29日 英語学会

会 場：野方WIZ

中野中学校のPlay “Peter Pan”

が区の代表に決定

◇2月22日 区中研英語部会 研修会

来年度に向けて

(第七中学校教諭 佐川和夫 記)

杉 並 区

I. 研究主題

「コミュニケーション能力の基礎を養うための指導と評価」

II. 研究の経過

- ◇ 4月13日 杉並教育研究会一斉部会
研究主題・組織・年間計画
- ◇ 8月22日 夏季ワークショップ
以下の内容を行う予定でしたが、台風で中止となりました。
「中学校英語教師の指導資料の活用」について
講 師：池田 武男 先生
(杉並区指導教授)
「新学習指導要領に基づいた指導方法の工夫・改善」～アクティブ・ラーニングを意識して～
講 師：神奈川大学外国語学部
英語英文学科准教授
久保野 雅史 先生
「English Refresher」
講 師：British Council所属の
外国人講師
- ◇ 10月5日 子小中合同研究会
「これからの日本の英語教育の展望」
講 師：上智大学言語教育センター長
吉田 研作 先生
- ◇ 11月5日 英語学芸発表会
スピーチ部門15人、ショー部門9グループの発表がありました。
- ◇ 2月15日 研究授業・部会
授業者：伊藤 裕子 先生 (井草中)
単元名：開隆堂 SUNSHINE
ENGLISH COURSE 2 PROGRAM10
“So Many Countries, So Many Customs”
講 師：神奈川大学外国語学部
英語英文学科准教授
久保野 雅史 先生
- ◇ 2月下旬 杉並区リスニングテスト
(井草中学校主幹教諭 金子敏治 記)

豊 島 区

I. 研究主題

「生徒が意欲的に言語活動に取り組む授業の工夫～小中連携をふまえて」

II. 研究の経過

- ◇ 4月13日 区中研一斉部会 (駒込中)
年間行事計画、組織・係分担、研究主題の決定
研修会、全英連、関ブロ、英語学芸会の確認
- ◇ 5月10日 都中英研総会講演会 (駒込中)
講 師：東京外国語大学
根岸 雅史 教授
演 題：これからの中学校での英語教育の指導と学び
- ◇ 8月26日 区中研一斉部会 (駒込中)
講 師：九段中等教育学校
本多 敏幸 指導教諭
演 題：本文を使った統合的活動の指導方法
- ◇ 11月9日 区中研研究授業 (西巢鴨中学校)
研究授業：三浦 薫子 教諭 (少人数授業)
「Stevie Wonder の半生を読み取り、主張を理解したり、その感想を伝えたりする英語活動」
講 師：三鷹第一中学校
野瀬 博 先生
- ◇ 11月12日 RC フェスタ参加 (千川中、明豊中、巢鴨北中)
千川中・書道を通して日本文化を伝える。
漢字クイズを英語で行う。
明豊中・豊島区の名所旧跡を巡り、外国の人に中学生が教えるという設定で寸劇。
巢鴨北中・巢鴨地蔵の由来を英語で表現する。
- ◇ 11月18日 関東ブロック神奈川大会に参加 (川崎市)
(明豊中学校主任教諭 小林博子 記)

北

区

I. 研究主題

「実践的コミュニケーション能力の向上
をめざした授業の工夫」

II. 研究の経過

◇4月20日 北区教育研究会英語・外国語
活動研究部小中合同部会・中学校部会

内 容：組織作り、研究目標、
活動計画、情報交換

◇8月22日 北区英語科教員研修会
講 演：「CAN-DOリストの作成と活
用について」

講 師：東京家政大学人文学部
英語コミュニケーション学科教授
太田 洋 先生

◇11月9日 連合英語学芸会

場 所：北区立滝野川会館

参加者：7校12名

最優秀生徒（桐ヶ丘中2年）

東京都英語学芸大会に参加。

◇11月30日 中学校研究授業

授業者：鳥谷 亮 教諭（飛鳥中）

対 象：中学校1年

単 元：NEW HORIZON

English Course 1 Unit 9

「チャイナタウンへ行こう」

講 評：北区外国語教育アドバイザー

坂下 孝憲 氏

◇12月4日 東京都英語学芸大会

英語スピーチ参加

◇2月9日 中学校研究授業

授業者：島袋 智 教諭（稲付中）

対 象：中学校1年

単 元：NEW HORIZON

English Course 1 Unit 11

「思い出の一年」

講 師：北区外国語教育アドバイザー

宗方 隆三 氏

（王子桜中学校主幹教諭 根本誉 記）

荒

川

区

I. 研究主題

「積極的にコミュニケーションを図ろう
とする態度の育成」

～世界に広がる荒川の英語教育～

II. 研究の経過

◇4月13日 組織づくり、主題決定

◇7月6日 講演・第九中学校
内 容：「アクティブラーニングでつな
ぐ新教科書の説明」
「デジタル教科書の活用のしかた」

講 師：三省堂教科書編集部

◇9月14日 小中合同部会

研究授業・尾久八幡中学校

授業者：佐野 賢太郎 教諭

宮崎 竹徳 主任教諭

小倉 清美 主任教諭

講 演：「言語の感覚を身につける」

講 師：玉川大学文学部准教授

工藤 洋路 先生

◇11月4日 英語スピーチコンテスト・
サンパール荒川

◇11月16日

研究授業・南千住第二中学校

授業者：澤田 真樹子 主任教諭

西尾 洋士 教諭

酒井 和彦 教諭

主 題：「コミュニケーションの関心、
意欲、態度の評価」

◇1月18日 小中合同部会

小学校研究授業・赤土小学校

主 題：小中のつながりを意識したコ
ミュニケーション能力育成を目指
して

～読む・書く活動を通して～

内 容：日本の正月お節料理の名前を覚
えよう。

～Welcome to Tokyoの

教材を生かして～

講 師：聖学院大学講師

小川 隆夫 先生

（第九中学校教諭 松田薫 記）

板 橋 区

I. 研究主題

「意欲的に言語活動に取り組む生徒の育成
～ICT機器を活用した工夫ある授業～」

II. 研究の経過

◇4月13日 区中研一斉部会

役員選出、研究主題・年間活動計画等の
決定

◇6月13日 第1回授業研究

授業者：倉橋 美緒 教諭（志村四中）

◇8月2日 夏季ワークショップ

1部 模擬授業

ICT機器の活用方法

2部 講演会

意欲的に言語活動に取り組む生徒
の育成～ICT機器を活用した工夫
ある授業～

講 師：日本女子大学 特任教授
稲葉 秀哉 先生

◇11月6日「英語のつどい」

会 場：板橋区立アクトホール

出場校：17校（スピーチ、劇等）

◇11月12日 第2回授業研究

授業者：近藤 浩 教諭（向原中）

長谷川 高丸 教諭（向原中）

◇2月2日 第3回授業研究

授業者：山崎 理加 教諭（板橋二中）

◇2月9日 区中研教職員研究発表会

○英語部会研究発表

①「電子黒板の効果的な活用」

（板橋第二中学校）

②「デジタル教科書の活用実践」

（志村五中）

③「ICT機器を活用した授業実践」

（桜川中）

④「You Tubeの活用実践」

（赤塚二中）

（志村第四中学校主任教諭 風間佳子 記）

練 馬 区

I. 研究主題

「基礎・基本の定着を図り、コミュニ
ケーション能力の基礎を培う。またア
クティブラーニングの手法等を用いて
生徒の思考力・表現力及び主体的に学
ぶ力を育てる。」

II. 研究の経過

◇5月11日 区中研一斉部会

◇6月22日 授業研究会（大泉第二中）

授業者：岩田 歩 教諭

◇8月2日・3日 夏期研修会

*「英語運用能力の確かな基礎を身に付
けさせる指導」

講 師：馬場 哲生 先生

（東京学芸大学教授）

*「4技能を育てるアクティブラーニン
グの英語授業」

講 師：山本 崇雄 先生

（都立両国高校）

*「授業づくりのポイント」

講 師：太田 洋 先生

（東京家政大学教授）

*「楽しく力がつく授業とは？」

講 師：田口 徹 先生

（千代田区立九段中等教育学校）

◇10月31日 英語学会

（練馬区立生涯学習センター）

都大会出場校：豊玉中

"The Sound of Music"

特別賞：大泉桜学園、貫井中

◇11月9日 授業研究会（開進第二中）

授業者：山中 恭子 教諭

（中村中学校主幹教諭 大森博 記）

足 立 区

- I. 研究主題
「足立スタンダードを活用した授業づくりを
目指して～小中連携とCAN-DOリストを踏
まえて～」
- II. 研究の経過
- ◇4月13日 一斉部会（千寿桜堤中学校）
・研究テーマ、事業計画、組織の確認
 - ◇7月13日 五ブロック研究授業
（5つのブロックで5校で研究授業を実施）
 - ◇7月25日 教科別研修会
（こども支援センターげんき）
・指導と評価の一体化について
・講 師：東京外国語大学
総合国際学研究院教授
根岸 雅史 先生
 - ◇7月26日 夏季集中研修会
指導と評価の一体化について（綾瀬ブルミエ）
 - ◇9月7日 五ブロック研究授業
 - ◇10月20日 連合英語学芸会
西新井文化ホール
・スピーチ優勝 洵江中学校
・劇の部優勝 千寿桜堤中学校（都3位）
 - ◇11月16日 スタンダード模範授業
・研究授業：柴野 泰行 指導教諭
（洵江中学校）
・講 師：入谷南中学校校長
遠藤 哲也 先生
 - ◇11月18日 教科別研修会
・スローラーナーに向けてのライティング指
導について
・帝京科学大学准教授 馬場 千秋 先生
 - ◇11月20日 スタンダード実践授業
（加賀中学校）大木田 陽子 先生
 - ◇12月7日 スタンダード実践授業
（花畑中学校）石川 裕紀 先生
 - ◇1月22日 五ブロック研修会
（教科別研修会）
 - ◇1月31日 スタンダード実践授業
（竹ノ塚中学校）松村 祐輔 先生
 - ◇2月1日 一斉部会（第十中学校）
・講 演：「中学生がつまずきやすい文法事
項の解明とその習得方法～足立区内の生徒
を対象に調査結果を基に～」
・講 師：東京外国語大学
総合国際学研究院教授 高島 英幸 先生
 - ◇2月9日 教科別研修会
（こども支援センターげんき）
・講 演：「基礎英語LEADを活用した効果
的な教材活用と指導方法の工夫」
・講 師：東京外国語大学
総合国際学研究院教授 投野 由紀夫 先生
（洵江中学校指導教諭 柴野泰行 記）

葛 飾 区

- I. 研究主題
「『思考力・判断力・表現力』を育む指
導の工夫」
- II. 研究の経過
- ◇4月5日 A L T導入全校説明会、
割当調整会議
 - ◇5月11日 葛中研全員部会
事業報告、会計報告、役員選出、事業計
画、予算案、情報交換
 - ◇6月18日 講演会
『今、求められる英語指導法について』
講 師：平木 裕 先生
（文部科学省教科調査官）
 - ◇10月2日 第1回研究授業
授業者：河野 光志 主任教諭
（立石中）
講 師：白倉 美里 先生
（東京学芸大学 講師）
 - ◇11月12日
第31回葛飾区立中学校英語スピーチ&
プレイコンテスト
（於：亀有リリオホール）
暗誦（6名）プレイ（4校）スピーチ1
（11名）スピーチ2（24名）参加、ス
ピーチ2優勝者（青戸中3年）が都大会
に出場した。
 - ◇2月14日 第2回研究授業
授業者：橋本 晋作 教諭
（中川中）
講 師：石井 亨 先生
（九段中等教育学校 主任教諭）
 - ◇3月21日
役員会：年度末反省、次年度活動計画、
名簿作成、情報交換
（立石中学校主任教諭 河野光志 記）

江戸川区

I. 研究主題

「コミュニケーション能力の基礎を養う
指導方法の工夫」

II. 研究の経過

◇5月11日 総会、役員会

- ・組織づくり
- ・年間活動目標、計画の検討、作成

◇8月1日 夏季研修会

〈午前の部〉

- ・「オリンピック・パラリンピックに関する授業」

講師：関口 智 指導教諭
(清新一中)

〈午後の部〉

- ・「教科書を活用した授業の組み立て」

講師：大内 由香里 主任教諭
(瑞江三中)

◇11月29日 研究授業、協議会

授業者：関口 智 指導教諭
(清新一中)

内 容：第1学年

Lesson 7 Sports for Everyone

◇2月8日 研究授業、協議会

第一会場 (小松川第二中学校)

授業者：鶴岡 友樹 教諭

内 容：第1学年

Lesson 9 Four Seasons

第二会場 (葛西第二中学校)

授業者：三柴 佳恵 教諭

内 容：第1学年

Lesson 9 Four Seasons

(南葛西第二中学校長 福沢俊之 記)

八王子市

I. 研究主題

「実践的な授業を通じた授業力・指導力の向上」

II. 活動の経過

◇5月12日 役員会

主題設定、組織、活動計画確認

◇6月21日 師範授業 (第一中学校)

授業者：広瀬 光恵 教諭

講師：佐藤 ひろみ 先生 (横川中)

◇7月29日 スキルアップ研修会

授業力・英語力のブラッシュアップ

「ネイティブ講師による英語力のブラッシュアップ」 (演習)

講師：Martin McCubbin 氏
(財) ELEC
Tony Gibson 氏
(財) ELEC

◇10月25日 研究授業 (松が谷中)

授業者：堀 雅也 教諭

講師：佐藤 ひろみ 先生 (横川中)

◇11月2日 一斉部会 研究授業

1ブロック

授業者：歌田 多恵 教諭 (石川中)

講師：関谷 さやか 指導主事
(都教委指導企画課 国際教育)

2ブロック

授業者：中村 祐子 教諭 (甲の原中)

講師：野瀬 博 先生
(前三鷹市立東三鷹学園第六中学校長)

3ブロック

授業者：薄井 亮 教諭 (第七中)

講師：小谷野 良行 先生
(前八王子市立第七中学校長)

4ブロック

授業者：小川 史哲 教諭 (別所中)

講師：佐藤 剛 先生
(前川崎市立宮崎中学校長)

◇2月13日 (月) ワークショップ

授業者：村松 喜美子 (松木中)

(石川中学校副校長 小島幸子 記)

立 川 市

I. 研究主題

「基礎・基本を身に付け、主体的に学ぶ力を育てる」

～小中連携教育の視点を生かして～

II. 研究の経過

- ◇5月11日 立中教研一斉部会
組織作り 活動計画
- ◇8月24日 夏季研修会
演習：「英語力のブラッシュアップ
及び中学校英語活動事例の
体験」
 - ・中学校の授業における小中連携教育の視点
 - ・少人数・習熟度別授業における活動の工夫講師：ブランドン・シンデルフ 先生
(インタラック講師)
内 容：アクティビティーの体験
ICT教材の活用 等
- ◇10月5日 研究授業
「生徒の主体的な学びに繋がる指導方法
の研究」
授業者：佐藤 正 教諭
(立川第一中学校)
内 容：NEW CROWN 2 Lesson 5 Part 2
ジェスチャーを交えての本文暗唱
講師：北原 延晃 主任教諭
(港区立赤坂中学校)
講演：「自分の授業をアクティブ
・ラーニング型にするには」
- ◇2月15日 研究発表会
内 容：研究の概要、成果と課題
(第一中学校主幹教諭 入江裕美子 記)

武 蔵 野 市

I. 研究主題

「小学校外国語活動から
中学校英語への言語活動の連携」

II. 研究の経過

- ◇4月18日 教育研究会一斉部会
 - ◇5月9日 活動計画の決定
 - ◇6月、7月 小学校部会
 - ◇10月10日 研究授業
授業者：坪田 裕希 主任教諭
対 象：第一中学校 3年生
講 師：中谷 愛 統括指導主事
内 容：ディベートによるアクティブ・
ラーニング
協 議：英語で本格的なディベートを
実施。意見を戦わせ、見ごたえ
のある授業であった。
 - ◇11月9日 授業観察 I
授業者：清水 夏希 主任教諭
フルザンメル・バクティア ALT
対 象：第一小学校 6年生
内 容：“want to go”を使って行き
たい国を尋ねるたり答える。
協 議：中学校2年～3年で扱う言語材
料も使ったレベルの高い授業で
あった。
 - ◇12月7日 小学校部会
 - ◇1月18日 授業観察 II
授業者：二日市 克 主幹教諭
ウィルソン・レイエス ALT
対 象：第六中学校 1年生
内 容：不規則動詞を用いた過去の
疑問文の応答
協 議：小学校卒業後、1年経過した
英語力を検証した。
- ## III. 成果と課題
- 本年度から小中合同の研究部となり、お互いの授業をなるべく多く見学し、知ることで、次年度の研究につなげることができた。
- (第六中学校教諭 二日市 克 記)

三 鷹 市

I. 研究主題

「発達段階に応じたコミュニケーション能力
の育成～小中連携のより効果的な試み～」

II. 研究の経過

- ◇ 4月15日 組織決めと年間活動計画
- ◇ 5月11日 「フォニックスの指導法」
研究協議会
- ◇ 6月10日 小中合同研究授業
単元名：Unit 3 Career Day
New Horizon English
Course 2
授業者：田中 誠一郎 教諭
高橋 美晴 教諭
平出 敏 講師
(第六中学校)
講 師：西貝 裕武 先生
(足立区教育委員会 統括指導主事)
- ◇ 9月14日 高山小学校にて亀山宏美主
任教諭による研究授業
第一中学校にて「ALTとの効果的な授
業検討」ワークショップ
- ◇ 10月12日 小中合同研究授業
単元名：Unit 4 どこへ行きたいですか？
Hi, Friends! 2 Lesson 5
Let's go to Italy.
授業者：千葉 布紀子 主任教諭
(羽沢小学校)
講 師：西貝 裕武 先生
(足立区教育委員会 統括指導主事)
- ◇ 11月 9日 第六小学校にて藤目倫子主
任教諭による研究授業
第一中学校にて「パフォーマンステスト
について」の検討
- ◇ 1月14日 第七小学校にてワールドカ
フェ方式による協議会
テーマ：小中連携した効果的な英語の
授業作り
- ◇ 2月 7日 今年度の研究のまとめ
(第六中学校教諭 富澤麻美 記)

青 梅 市

I. 研究主題

「より良い授業の工夫と創造（伝え合う
力の向上）」

～小・中学校の連携を深め、生徒の英語
の運用能力・理解力を高めるために～

II. 研究の経過

- ◇ 5月 11日 中教研全体会・部会
- ◇ 7月 30日 夏季研修会
「英語活動ステップアップ研修」
講 師：スティーブン・ワイトマン 先生
(インタラック講師)
内 容：○英文法を英語で教える
テクニク
○英会話を活用した活動の紹介
- ◇ 10月 26日 授業研究
授業者：齊藤 巧 教諭 (三中)
安部 暖 教諭 (三中)
元家 史子 教諭 (三中)
内 容：○現在分詞の後置用法における
指導の工夫
○お願いをする表現の指導の
工夫
(May I～? Will you～?)
○三人称単数現在形に指導の
工夫
講 師：都教育委員会義務教育指導課
統括指導主事 中谷 愛 先生
講 評：○生徒の積極的な活動を促すた
めには授業の目的、最終ゴール
等を明確にすることが意欲
の向上につながる。
(西中学校副校長 廣瀬尊貴 記)

府 中 市

- I. 研究主題
「CAN-DOリストを授業に生かす方法」
- II. 研究経過及び内容
- ◇4月13日 部員総会
役員選出、活動計画の確認
 - ◇6月8日 小中連携の日
各地区の授業参観と協議会
 - ◇8月12日 サマーワークショップ
講 師：太田 洋 先生
(東京家政大学人文学部教授)
・「CAN-DOリストを授業に生かす方法」
について講義、演習
 - ◇8月18～19日 英語ミニキャンプ
・市内の中学校の生徒が参加
・2日間オールイングリッシュで活動
 - ◇9月14日 研究授業・協議会
授業者：宮野 和子 教諭 (浅間中)
 - ◇10月12日 ワークショップ①
授業力・英語力のブラッシュアップ
講 師：マイケル・ユン 氏
ジェイソン・クラウダー 氏
 - ◇11月8日 ワークショップ②
授業力・英語力のブラッシュアップ
講 師：マイケル・ユン 氏
ジェイソン・クラウダー 氏
 - ◇12月14日 小学校の研究授業
授業者：寺本 恵久子 主任教諭 (住吉小)
 - ◇1月18日 研究授業
授業者：矢崎 慶 主幹教諭 (一中)
小泉 由季 教諭 (一中)
- 講 師：内田 富男 先生
(明星大学人文学部准教授)
- ・コーパス言語、英語教授法についての講義
- ◇2月1日 府教研研究発表会
 - ◇3月8日 研究のまとめ (一小)
 - ・次年度の研究主題、研究内容の検討
 - ・検討英語ミニキャンプ、庶務などの引き継ぎ事項の確認
- (六中主任教諭 増田美奈子 記)

昭 島 市

- I. 研究主題
「生徒の苦手意識を取り除き
自己肯定感を高める指導の工夫」
- II. 活動報告
- ◇4月20日 一斉部会 (多摩辺中学校)
研究主題設定、活動計画、組織作り
 - ◇5月18日 協議会 (福島中学校)
各校で使用しているワークシートを持ち寄っての指導法の共有化Welcome to Tokyoについての説明
 - ◇10月7日 研究授業 (昭和中学校)
授業者：田口 暁之 教諭
(昭和中学校)
中嶋 規乃 教諭
(昭和中学校)
高水 秀樹 教諭
(昭和中学校)
- 内 容：TOTAL ENGLISH 2
Lesson 4 助動詞
- ◇1月18日 小中連携 (拝島第一小学校)
授業者：菊池 佑典 教諭
(拝島第一小学校)
- 内 容：What do you want to be?
(将来の仕事)
- III. 5月の協議会では、各校で使用しているワークシートや学習活動について意見交換をする時間が持てとても有意義であった。10月の研究授業では昭和中学校の少人数授業を参観でき、これからの授業改善に役立つ研究協議が実施できた。
- 今後も生徒が興味・関心を持てるような魅力的な教材を開発し、生徒にとってわかりやすい授業を実践していく。そして、学習内容の定着を通して生徒の苦手意識を取り除き、自己肯定感を高めていけるよう研究を進めていく必要がある。
- 毎回の研究会で、一つでも各自の授業に取り入れることができる活動を持ち帰ることができるように、来年度以降も活発な活動を継続したい。
- (福島中学校主任教諭 松永高志 記)

調 布 市

I. 研究主題

「自律した学習者の育成のために」～アクティブラーニングを活用した授業の展開を目指す～

II. 研究の経過

- ◇5月11日 一斉部会
会 場：第八中学校
内 容：年間テーマ・予定案の提示
- ◇6月8日 一斉部会
会 場：第六中学校
内 容：年間テーマ・予定の確定
- ◇7月22日 夏季研修会
会 場：第六中学校
講 師：淡路 佳昌 先生
(大東文化大学 准教授)
内 容：自律した学習者育成の視点
アクティブラーニングの具体例
や手法など
- ◇10月12日 研究授業・協議会
※調小研合同
会 場：第五中学校
授業者：横澤 康子 先生
(第五中学校)
講 師：江利川 春雄 先生
(和歌山大学 教授)
内 容：アクティブラーニングの
ポイントなど
- ◇11月9日 模擬授業研究
会 場：第六中学校
講 師：江利川 春雄 先生
(和歌山大学 教授)
※小学校外国語活動授業を参観
- ◇12月7日 小学校外国語活動参観
- ◇1月11日 模擬授業研究と総括
会 場：第六中学校
講 師：江利川 春雄 先生
(和歌山大学 教授)
- ◇2月8日 研究発表会
(第六中学校主幹教諭 橋本浩 記)

町 田 市

I. 研究主題

「少人数授業で、いかに発信力を高めていくか」

II. 研究の過程

- ◇4月13日 一斉部会
会 場：町田市立町田第二中学校
内 容：研究主題の設定
年間活動計画
組織作り
- ◇11月2日 一斉部会(研修会)
会 場：町田市立町田第一中学校
内 容：「小学校英語との連携と少人数
授業での発信力の高め方」
講 師：井澤 牧子 教授
(玉川大学)
- ◇2月1日 一斉部会(研究授業)
会 場：町田市立成瀬台中学校
内 容：TOTAL ENGLISH 2
Lesson7 7B
最上級(言語活動)
授業者：大川 久美 教諭
(成瀬台中学校)
(武蔵岡中学校教諭 成田礼佳 記)

小 金 井 市

I. 研究主題

「効果的な少人数・習熟度別指導のあり方～充実したコミュニケーション活動を目指して～」

II. 研究の経過

◇4月20日 一斉部会

- ・研究主題の検討
- ・年間活動計画の作成

◇6月1日 市教研部会

- ・少人数・習熟度別指導の実際
- ・“Welcome to Tokyo”の活用方法
- ・28年度版教科書の変更点の確認

◇10月 模範授業の参観

授業者：相沢 秀和 指導教諭
(国分寺市立第一中学校)

◇11月9日 研究授業

授業者：江崎 優 教諭
(小金井市立第二中学校)
講 師：重松 靖 校長
(国分寺市立第二中学校)
同講師による講演会

- ・少人数・習熟度別指導の留意点・工夫点
- ・Input からOutput への過程
- ・新学習指導要領の変更点

◇1月18日 市教研部会

- ・研究のまとめ
- ・今年度の成果と課題について

◇2月8日 研究発表会

(小金井市立東中学校教諭 石浦絵務 記)

小 平 市

I. 研究主題

「英語科における指導と評価の工夫・改善について」

II. 研究の経過

◇4月21日 教科等研究会総会
第1回英語部会
組織、計画立案

◇8月1日 夏期研修会①(上水中学校)

内 容：NEW CROWNの活用
講 師：重松 靖 先生
(国分寺市立第二中学校長)
・Use Readの指導を中心に、NEW CROWN編集の意図、活用上の留意点等

◇8月4日 夏期研修会②

内 容：パフォーマンステストの考え方と実践
講 師：中谷 愛 先生
(教育庁指導部義務教育指導課 統括指導主事)

- ・東京方式少人数・習熟度別ガイドラインに基づき、27年度に導入した2校の実践報告も交えた研修

◇8月26日 夏期研修会③

内 容：授業をデザインする
講 師：阿野 幸一 先生
(文教大学国際理解学科教授)

- ・CAN-DOリストの考え方等も含めた授業改善について

◇9月14日 授業研究

会 場：小平第二中学校
授業者：鈴木 守 主任教諭
講 師：松岡 敬明 先生

(十文字学園女子大学 教授)

◇10月 まとめ、実践報告書作成

(上水中学校主任教諭 阿坂真人 記)

日 野 市

- I. 研究主題
「情報発信できる生徒の育成を目指した
CAN-DOリストの活用」
- II. 研究の過程
- ◇研究の経過
- ◇5月11日 中教研総会：組織作り
- ◇6月11日 研究授業①
授業者：永井 剛 主任教諭（七生中）
/ALT: Mr. Sabin
NEW CROWN3 L3
“Rakugo Goes Overseas”
講 師：中村 貴美子 先生
（KIM’S英語教育研究所所長）
- ◇7月6日 研究授業②
授業者：中川 祥子 教諭
（日野第二中）
/ALT: Ms. Kiren
Welcome to Tokyo :
Topic 2 “Bentos”
- ◇8月24日 夏期研修会（日野第一中）
講 師：相沢 秀和 指導教諭
（国分寺市立第一中学校）
『授業におけるCAN-DOリストの活用と
4技能の評価』
- ◇9月7日 研究授業③小中連携研究
授業者：山岸 里翔 教諭（仲田小）
第1学年『フルーツパフェを作ろう』
講 師：永井 淳子 先生
（東京都市大学付属小学校）
- ◇10月5日 研究授業④
授業者：金城 哲司 教諭
（日野第一中）
NEW CROWN1 L5
『Our New Friend』 G3
- ◇11月1日 研究授業⑤
授業者：花井 友香 教諭
（日野第一中）
NEW CROWN 2 L6
『My Dream』 G-2
講 師：竹田 秋人 先生
（新宿区英語教育アドバイザー）
- ◇12月26日 ビデオ研究授業⑥
授業①：花井 友香 教諭
（日野第一中）
授業②：原田 博子 主任教諭
（文京十中）
- ◇2月15日 研究発表会
（三沢中学校主任教諭 佐藤真雄 記）

東 村 山 市

- I. 研究主題
「教科書改訂に伴う言語活動の充実～英
語を通して思考力・表現力を高める」
- II. 研究の経過
- ◇4月13日 統一部会（南台小）
- ◇5月11日 定期総会（中央公民館）
- ◇6月1日 研究主題の設定、
年間活動方針の決定など
- ◇7月6日 小テーマの決定
- ◇8月12日 サマーワークショップ
テーマ：「グローバル化に対応すべき
これからの外国語教育」
講 師：東京家政大学人文学部
英語コミュニケーション学部
教授 太田 洋 先生
- ◇10月5日 研究授業発表 東村山一中
少人数制授業 1年生
- ◇11月2日 分科会実践交流①
- ◇1月11日 研究主題の達成状況等
まとめ
- ◇2月15日 研究発表会
- ◇3月1日 今年度のまとめと次年度に
向けて
（東村山第一中学校教諭 伊藤光 記）

国 分 寺 市

I. 研究主題

「少人数指導の特性を生かした指導と評価の工夫」

II. 研究の経過

◇4月13日 一斉部会

内 容：研究主題・年間計画の検討

◇6月1日 研修会

内 容：少人数指導についての情報交換

・表現活動での指導と評価について

・CAN-DOリストの活用

・少人数指導の実践報告

・各校の実践についてグループ協議

◇10月5日 研究授業 ほか

授業者：第四中学校

瀬口 二三子 主任教諭

服部 千里 主任教諭

日比野 千佳 主任教諭

内 容：NEW CROWN 1

Let's Talk④買い物しよう

講 師：重松 靖 校長

(第二中学校)

ほ か：英語教材「Welcome to Tokyo」活用について

◇1月18日 研修会

・研究のまとめ

III. 成果と課題

・各校の少人数指導について情報交換を行い、指導案や評価法の工夫などにより複数の教員での指導によるずれを抑える示唆を得た。

・研究授業にて、視聴覚機器を利用した授業の利点と課題を実感できた。

・今後も少人数指導の利点を生かし、より適切な指導と評価を行うため、市内英語科教員の協働と授業改善のための研修が必要である。

(第三中学校主任教諭 齊藤美佳 記)

国 立 市

I. 研究主題

「コミュニケーション活動の充実」

～小学校外国語活動の教科化に向けた小中連携～

II. 研究の経過

◇4月20日 組織編制・主題設定

◇5月11日 研究授業指導案検討

◇6月30日 研究授業及び研究協議

指導講評

授業者：国立第一中学校

樋口 はる菜 教諭

内 容：Unit 3 (COLUNBUS 21)

1年生 “The Teachers”

「身近な人のことを紹介しよう!」

講 師：Kim's 英語教育・英語研究所

(所長 中村 貴美子 先生)

◇7月21日 公開授業指導案検討

◇9月7日 公開授業指導案検討

◇11月9日 公開授業及び研究協議

指導講評

授業者：国立第六小学校

板倉 千恵 教諭 (T1)

栗木 明子 先生 (ALT)

内 容：5年生 Lesson 2

(Welcome to Tokyo Elementary)

「給食を楽しんでもらおう」

Lesson 7 (Hi, Friends! 1)

“What's this?”

講 師：Kim's 英語教育・英語研究所

(所長 中村 貴美子 先生)

◇1月18日 研究のまとめ

及び研究紀要作成協議

(国立第三中学校主任教諭 大屋剛 記)

福 生 市

I. 研究主題

「主体的に考え判断し表現する生徒の育成」

～小中9年間の連続性を意識して～

II. 研究の経過

- ◇4月15日 年間計画の作成
研究主題設定
- ◇6月29日 小学校外国語学習
(福生第五小学校五年生の授業観察)
- ◇8月23日 ワークショップ
テーマ：「読むこと～スモールステップを意識した導入と展開～」
講師：中鉢 健治 先生
(都立小石川中等教育学校)
- ◇9月21日 研究授業(福生二中)
授業者：須田 和也 主幹教諭
寺沢 陽子 主任教諭
Russell Arambulo
内 容：NEW CROWN 3
Lesson5 Places to GO,
Things to Do
講師：林 宣之 先生
(福生市教育委員会教育部
教育指導課 統括指導主事)
- ◇1月18日 福教研一斉部会
福教研研究紀要について
- ◇2月15日 福教研報告会
(福生二中教諭 鈴木聡美 記)

狛 江 市

I. 研究主題

「表現の能力を高める工夫」

～オリンピック・パラリンピック教育の推進を踏まえて

II. 研究の経過

- ◇4月 部長会
 - ◇5月 一斉部会(研究主題作成)
定期総会
 - ◇9月 研修会(狛江一中)
○テーマ
「教科書を用いた効果的な指導法について」
○講 師：玉川大学文学部
日臺 滋之 教授
 - ◇10月 研究授業(狛江一中)
○テーマ
「表現の能力を高める工夫」
○授業者：大宅 完志
○講 師：玉川大学文学部
日臺 滋之 教授
 - ◇11月、1月 部長会
 - ◇2月 研究・活動報告会
- ## III. 成果と課題
- ・教科書の活用法
 - ・生徒を集中させる授業
 - ・ICTを生かした効果的な指導法
- 以上について9月、10月の部会において研究を深めた。今後も課題を意識しながら、各校で教員がそれぞれの授業を工夫し、引き続き改善を進め、研鑽していく必要がある。
- (狛江第三中学校教諭 岡部宏子 記)

東 大 和 市

I. 研究主題

「新教科書を活用・工夫した表現力を高める授業の研究」

II. 研究の経過

◇5月11日 一斉部会

研究主題の検討・活動計画の作成

◇7月22日 夏の研修

講 師：TOTAL編集長 嶋本 誠 さん
新教科書編集においての変更点・工夫点
実際の授業での活用の仕方の解説と議論

◇11月2日 研究授業

授業者：第五中学校 神座 想 教諭
ICTを活用しながら、生徒の表現力を高める授業（第2学年 Lesson 6）

講 師：品川区立豊葉の杜学園

石田 陽平 先生

現行学習指導要領と新学習指導要領

ICTを活用した英語指導の実践

（パワーポイント・映像）

III. 研究の成果と課題

新教科書の解説により、教科書の効果的な使用がより可能になるのではないか。ICTの活用は始まったばかりではあるが、デジタル教材を使っただけの楽しく効果的な英語指導を学ぶ良い機会となった。パワーポイントによる指導は、いろいろな可能性を秘めていることを知る機会ともなった。

生徒の学習状況や能力を考え、授業でのさらなる工夫や教科書の効果的な活用が大切である。

生徒の表現力をつけていくために、日々の基礎・基本の定着が最重要課題である。

（第五中学校教諭 武井恭子 記）

清 瀬 市

I. 研究主題

「アクティブ・ラーニングを活かした授業」

II. 研究の経過

◇4月20日 教育研究会

会 場：清瀬第二中学校

内 容：研究主題の設定、年間活動計画の作成、情報交換

◇7～8月 研究会・ワークショップへの参加

◇8月12日 研修会

会 場：清瀬市生涯学習センター

内 容：『グローバル化に対応すべき
これからの外国語教育』
～CAN-DOリストの
作成と活用～

講 師：太田 洋 先生

◇11月3日 教育研究会

会 場：清瀬第二中学校

授業者：遠藤 遥 教諭（二中）

対 象：1年2組 34名

単 元：NEW CROWN 1

Let's Talk 6

内 容：研究授業、研究協議、
各校より授業実践報告

講 師：豊島区立明豊中学校

小林 博子 主任教諭

「授業改善の方向性」と

「英語科にとっての活用する力」
について

（清瀬第三中学校教諭 名賀石朋世 記）

東久留米市

I. 研究主題

- (1) 「All Englishで進める指導法の工夫」
- (2) 「アクティブラーニングを取り入れた授業デザインの研究」
- (3) 「東京都独自英語教材 “Welcome to Tokyo” を活用した指導実践」

II. 研究の経過

- ◇5月11日 市授業改善研
研究主題・情報交換
- ◇7月6日 研究授業
南中学校1年生
授業者：瀧沢 ちなみ 教諭
講師：国分寺市立第二中学校長
重松 靖 先生
- ◇11月2日 研究授業
東中学校2年生
授業者：木村 穂奈美 教諭
山崎 聡 主幹教諭
講師：mpi松香フォニックス会長
松香 洋子 先生
- ◇研究のまとめ
 - (1) Practiceの活動が多くなり、Productionにあたる活動が少なくなりがちであるためWeb上にある授業例などを参考に、新たな活動の方法を模索していく。
 - (2) アクティブラーニングについて
ア 学力とは何かを考え直し、生徒の学力を保証する必要がある。
イ 評価方法の確立が大切である。
 - (3) Welcome to TokyoはDVDを見せることから始めていく。
(中央中学校主幹教諭 三田村規子 記)

武蔵村山市

I. 研究主題

「習熟度別授業における評価方法」

II. 研究の経過

- ◇4月20日
市教研一斉部会
 - ・組織編成
 - ・研究主題設定
 - ・年間計画 等
- ◇10月5日
 - ・第一中学校実践交流会
授業者：伊藤 理絵 教諭
海川 京子 教諭
三宅 修二郎 教諭
単元名：TOTAL ENGLISH 2
“talking time 道案内”
講師：松岡 敬明 教授
(十文字学園女子大学
人間生活学部 児童教育学科)
- ◇11月9日
第二回部会 研修会
講師：教育出版社 編集局英語学科
中学英語編集長
川島 重文
- ◇2月9日
第三回部会 研究授業及び協議会
授業者：第五中学校
阿部 則子 教諭
単元名：ONE WORLD 1
Lesson 8 それぞれの冬休み
(第五中学校 阿部則子 記)

多 摩 市

I. 研究主題

「ALTを生かした効果的授業」

II. 研究の経過

(1) 一斉部会

日 時：平成28年5月11日（水）
15：00～

場 所：多摩市立東愛宕中学校

内 容：（1）英語部会組織作り
（2）研究主題と年間計画決定

(2) 部会

①日 時：平成28年6月8日（水）
14：00～

場 所：多摩市立多摩永山中学校

内 容：ALTとのTT授業に関する
ワークショップ

講師・協力：株式会社Interac

②日 時：平成28年11月2日（水）
14：30～

場 所：多摩市立鶴牧中学校

内 容：少人数による1年生研究授業
（Totalの教科書を使用した）

授業者：石田 明里 教諭

佐藤 優 教諭

単 元：Total English1 Action!

何時ですか？

講 師：八王子市立第五中学校
山下 清子 主幹教諭

(3) 研究発表会（予定）

日 時：平成29年2月15日（水）

場 所：多摩市立諏訪中学校

内 容：未定
（多摩永山中学校教諭 鈴木悠平 記）

稲 城 市

I. 研究主題

「児童・生徒に自信を持たせるインプット
の工夫」

II. 研究の経過

◇5月11日 ビデオによる授業研究

◇6月8日 ワークショップ
講 師：ボーダリンク英語指導相談員、
コーディネーター、
NT (Native Teacher) 3名

◇8月1日 ワークショップ
白百合女子大学小学校英語セミナー・
ワークショップに参加

◇9月14日 研究授業
授業者：松下 龍馬（若葉台小）
学 級：4年1組
単 元：お気に入りの服を選ぼう
講 師：鈴木 祐介 校長
（調布市立緑ヶ丘小学校）

◇10月5日 研究授業
授業者：古山 秀典（稲城第六中）
単 元：NEW CROWN 1
Let's Talk 4
講 師：菱沼 省二 校長
（調布市立第四中学校）

◇11月16日 研究授業
授業者：大谷 佳苗（平尾小）
学 級：6年3組
単 元：道案内をしよう
講 師：吉村 達之 校長
（三鷹市立三鷹中央学園第七小学校）

◇1月18日 研究のまとめ
（稲城第四中主任教諭 池森久人 記）

あ き る 野 市

I. 研究主題

「生徒の学力を向上させるための4技能の指導方法～効果的な小中一貫教育の在り方～」

II. 研究の経過

◇6月15日 授業研究 I

会 場 : 五日市中学校
授業者 : 若尾 和成 教諭
宮下 友佳 教諭

授業内容: NEW CROWN 3 Lesson 3
Rakugo Goes Overseas

講 師 : 東京都国分寺市立第一中学校
相沢 秀和 指導教諭

◇8月23日 授業力向上研修

会 場 : 五日市中学校
内 容 : 「小学校外国語活動における
文字指導とコミュニケーション活動」

講 師 : 小学校英語教育アドバイザー
三浦 邦子 先生

◇10月5日 授業研究 II

会 場 : 秋多中学校
授業者 : 松村 依子 主任教諭
櫻田 勢津子 教諭
北川 葵 教諭

授業内容: NEW HORIZON 1 Unit5
“学校の文化祭”

講 師 : 東京都国分寺市立第一中学校
相沢 秀和 指導教諭

◇1月18日 授業研究 III

会 場 : 西中学校
授業者 : 高橋 美紀 教諭

授業内容: NEW HORIZON 1
Daily Scene 2 電話で会話

講 師 : 東京都国分寺市立第一中学校
相沢 秀和 指導教諭
(西中学校教諭 花房秀美 記)

西 東 京 市

I. 研究主題

「コミュニケーション活動のさらなる充実
～アクティブ・ラーニング、ICTを活用
した授業、All English の授業～」

II. 研究の経過

◇5月18日 平成28年度西東京市立中学校教育研究会

- ①定期総会及び英語部会
- ②各校自己紹介・組織作り
- ③今年度活動方針と活動内容設定

◇11月9日 研究授業と研究協議

会 場 : 青嵐中学校
研究授業: 3年D組教室
授業者 : 青嵐中学校
重野 巴 教諭

授業内容: NEW CROWN 3 Lesson 6
“I Have a Dream”

◇11月21日 講演と今年度海外派遣報告

会 場 : ひばりヶ丘中学校 (視聴覚室)
講 師 : 杉並区立済美教育センター
指導教授: 池田 武男 先生
講 演 : 「アクティブ・ラーニング」

内 容 : AL 授業を実行するための工夫(入門期、文化や言語への関心を高める知識の扱い、言語活動の使い分け)や深い学びに到達させるための「発展活動」について具体的なアドバイスをいただいた内容の深い講演会となった。

(柳沢中学校教諭 境野亜希子 記)

羽村市・西多摩

- I. 研究主題
「学習意欲の向上を目指した授業の工夫」
- II. 研究の経過
- ◇4月7日 部長会
会 場：日の出町立大久野中学校
内 容：28年度事業計画
- ◇5月11日 一斉部会
会 場：日の出町立平井中学校
内 容：①英語部会組織作り
②研究主題・年間計画の検討
- ◇7月27日 夏季研修会
会 場：羽村市立羽村第二中学校
テーマ：「Welcome to Tokyoの活用について」
講 師：国分寺市立第一中学校
相沢 秀和 指導教諭
内 容：Welcome to Tokyoをどのように活用できるかを、具体的な事例を含めて示していただいた。
- ◇10月26日 研究授業・研究協議
会 場：羽村第二中学校
授業者：小泉 秀利 教諭
内 容：Total English 2
『Talking Time 道案内』
講 師：国分寺市立第二中学校校長
重松 靖 先生
- ◇2月17日 部長会
会 場：日の出町立大久野中学校
内 容：年度反省・まとめ
(羽村第二中学校教諭 松岡梓 記)

大 島 町

- I. 研究主題
「学力向上を目指した基礎学力定着のための指導の工夫～小中連携を視野に入れて～」
- II. 研究の経過
- ◇4月20日 大島町中学英語研究会
①平成27年度活動報告
②平成28年度組織作り
研究主題・年間活動計画の検討
- ◇6月10日 教育研究会英語部会
会 場：大島町立第一中学校
①研究授業
対 象：第1学年
授業者：南谷 あゆみ 先生
上野 洋平 先生
②研究協議(新教科書について)
③情報交換
- ◇10月12日 教育研究会英語部会
会 場：大島町立第二中学校
①研究授業
対 象：第1学年
授業者：吉本 洋人 先生
②研究協議
③情報交換
- ◇11月30日 教育研究会英語部会
会 場：大島町立第一中学校
①大島町教育課程検討
②情報交換
- ◇1月25日 教育研究会英語部会
会 場：大島町立第三中学校
①研究授業
対 象：第1学年
授業者：山本 昌人 先生
②研究協議
③本年度の反省と来年度の課題協議
(第二中学校主幹：吉本洋人 記)

八 丈 町

I. 研究主題

「コミュニケーション能力を高める指導
の工夫」

II. 活動の経過

◇5月11日 第1回部会

研究主題、活動計画、組織作り

◇7月13日 第2回部会

①研究授業

会 場：三原中学校

対 象：第2学年

授業者：峯重 透 教諭

②協議

③情報交換

◇10月26日 第3回部会

①研究授業

会 場：富士中学校

対 象：第1学年

授業者：甘利 朋子 教諭

市倉 隆司 教諭

②協議

③情報交換

◇国際理解教室

講 師：Mr.Tarek Fatyani

(シリア出身)

12月1日 三原中学校、大賀郷中学校

12月2日 富士中学校

◇1月18日 第4回部会

①研究授業

会 場：大賀郷中学校

対 象：第3学年

授業者：石橋 弘毅 主幹教諭

②協議

③年度末反省・まとめ

④情報交換

(大賀郷中学校主幹教諭 石橋弘毅 記)

平成 28 年度
中英研事業報告

1. 4月26日(火) 役員会

於：豊島区立駒込中学校

- ①役員組織等の確認
- ②年間事業計画の検討
- ③中英研定期総会に向けて
- ④役員会の日程について
- ⑤関ブロ神奈川大会について
- ⑥全英連山口大会について

2. 5月10日(火) 定期総会・懇親会

於：豊島区立駒込中学校

- ①27年度事業報告・決算報告
- ②27年度会計監査報告
- ③新役員の承認
- ④28年度行動目標の承認
- ⑤28年度事業計画・予算の承認
- ◎講演会

「これからの中学校での

英語教育の指導と学び」

講師：根岸 雅史 先生

(東京外国語大学教授)

◎懇親会

3. 6月14日(火) 役員会

於：豊島区立駒込中学校

- ①都研修センター研究普及事業等について
- ②中英研HPの担当者について
- ③総会・囲む会の改善について
- ④関ブロ理事研修会について
- ⑤都中教研総会について

4. 7月15日(金) 役員会

於：豊島区立駒込中学校

- ①HPの更新について
- ②各部夏期ワークショップの確認
- ③地区部長・幹事会の確認

④関ブロ神奈川大会について

⑤大都市英語教育研究協議会横浜市大会について

5. 8月2日(火)

研究部夏季語い指導ワークショップ
第1回

於：千代田区立九段中等教育学校

講師：佐藤 優 先生

(多摩市立鶴牧中学校)

古川 悟 先生

(品川区立荏原第六中学校)

上尾 栄美子 先生

(足立区立第五中学校)

8月10日(水) 第2回

於：世田谷区立三宿中学校

講師：太田 裕也 先生

(八王子市立第六中学校)

福田 真希子 先生

(江戸川区立鹿本中学校)

水嶋 諒 先生

(江東区立深川第四中学校)

8月18日(木) 第3回

於：中野区立中野中学校

講師：壽原 友理子 先生

(世田谷区立三宿中学校)

福島 美記子 先生

(杉並区立荻窪中学校)

江濱 悦子 先生

(大田区立大森第四中学校)

6. 8月17日(水)

サマーワークショップ(事業部主催)

於：千代田区立九段中等教育学校

講師：飯田 修平 先生

(三鷹市立第三中学校)

水嶋 諒 先生

(江東区立深川第四中学校)

講演：阿野 幸一 先生

(文教大学国際学部教授)

7. 8月25日(木) 地区部長・幹事会

於：豊島区立駒込中学校

各地区の活動状況について

(講演会)

- 「本文を使った
統合的活動の指導方法」
講師：本多 敏幸 先生
(九段中等教育学校指導教諭)
8. 10月3日(月) 役員会
於：豊島区立駒込中学校
①HPについて
②各部夏期ワークショップの報告
③地区部長・幹事会の報告
④関ブロ神奈川大会について
⑤大都市英語教育研究協議会
横浜市大会について
9. 10月14日(金)
第56回大都市公立中学校英語
教育研究連絡協議会横浜市大会
於：横浜花咲ビル
講師：吉田 研作 先生
(上智大学言語教育研究センター長)
10. 11月11日(金) 12日(土)
第66回全国英語研究大会山口大会
於：第1日目 山口市民会館
第2日目 山口学芸大学他
11. 11月15日(火)
授業力アップ研修会(事業部主催)
於：千代田区立九段中等教育学校
授業者：高瀬 ひとみ 先生
(九段中等教育学校主任教諭)
講師：田口 徹 先生
(九段中等教育学校主任教諭)
12. 11月17日(木)
プロジェクトチーム部研修会
於：文京区立第十中学校
テーマ：「CAN-DOリストを
活用した授業」
授業者：原田 博子 先生
(文京区立第十中学校)
講師：本多 敏幸 先生
(九段中等教育学校指導教諭)
13. 11月18日(金)
第40回関東甲信地区中学校
英語教育研究協議会 神奈川大会
於：川崎市総合福祉センター他
- (県外提案発表者：第1分科会)
発表者：山内 晶子 先生
(国分寺市立第五中学校)
助言者：市川 拓治 指導主事
(東京都教職員研修センター)
14. 11月30日(月) 役員会
於：豊島区立駒込中学校
①英語学芸大会について
②研究部研究発表について
③中英研PR文の掲載について
④関ブロ神奈川大会関係について
15. 12月4日(日)
第69回英語学芸大会
於：豊島区立千登世橋中学校
16. 12月19日(月)
「都中英研だより」第70号発行
17. 1月26日(木) 役員会
於：豊島区立駒込中学校
①研究部発表会について
②次年度組織について
18. 2月17日(金)
中英研研究部発表会
於：八王子市立第六中学校
授業者：太田 裕也 先生
研究発表：「語いと英語教育(40)」
講師：久保野 雅史 先生
(神奈川大学外国語学部准教授)
19. 2月 役員会(予定)
於：未定
①研究部発表会報告
②平成29年度役員人事について
③次年度活動計画について
20. 3月中旬「中英研会報」発行予定
21. 3月末 役員会(予定)
於：豊島区立駒込中学校
①28年度各部事業・決算報告
②次年度新役員構成の確認
③次年度総会について
④情報交換
(副会長：刀根 武史 記)

東京都中学校英語教育研究会会則

第1章 総 則

- 第1条 本会は東京都中学校英語教育研究会と称する。
第2条 本会は事務局を会長指定の場所に置く。
第3条 本会は東京都中学校の英語教育関係者を会員とする。

第2章 目的及び事業

- 第4条 本会は中学校英語教育に関する事項を研究し、会員の識見の向上に努めると共に、英語教育の振興を図ることを目標とする。
第5条 本会は前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
1. 各種研修会の開催（研修会、発表会、講演会等）
2. 調査活動（コミュニケーションテストの作成とその分析、調査活動等）
3. 研究活動（英語教育に関わる基礎的かつ実践的な課題等）
4. 各種英語教育団体との連絡
5. 機関誌発行、本会の目的達成に必要な事業

第3章 役員及び幹事

- 第6条 本会には次の役員および幹事をおく。
1. 会長1名
2. 副会長若干名
3. 部長各部ごと1名
4. 副部長各部ごと若干名
5. 会計監査2～3名
6. 幹事各区、市ごとに1名
第7条 役員を選出は次のとおりとする。
1. 会長・副会長は役員会の推薦により、総会の承認を得なければならない。
2. 部長・副部長は役員会の推薦により、会長が委嘱する。
3. 会計監査は役員会の推薦により、会長が委嘱する。
第8条 役員の仕事は次のとおりとする。
1. 会長は本会を代表し、会務を総括する。
2. 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行すると共に、各部を分担する。
3. 部長は担当副会長と協議の上、部会を招集し、会務を執行する。
4. 幹事は本部と各地区との連絡にあたる。
5. 事務局は総務部が担当し、事務局長は総務部長があたる。

6. 会計監査は会計の監査を行い、その結果を総会に報告する。
- 第9条 役員の任期は1年とする。ただし再任を妨げない。
- 第10条 本会に相談役、参与及び顧問をおくことができる。
1. 相談役はOB会長及び副会長より、参与は現職校長より役員会の推薦により会長が委嘱する。
 2. 顧問は英語科出身の指導主事より会長が委嘱する。

第4章 会 議

- 第11条 会議は次のとおりとする。
1. 総 会
毎年1回会長が招集し、会務の報告、役員的人事、予算、決算等を審議し、決定する。ただし、必要がある場合は臨時に開くことができる。
 2. 役員会
会長・副会長・部長をもって構成し、必要に応じて副部長・会計監査を加え、会長の諮問機関とする。
 3. 幹事会
役員・幹事をもって構成し、学期1回以上例会を開き、会務を執行する。
 4. 部 会
[総務部] 庶務、会計・渉外および他部に属さない事項の処理
[事業部] 会の年間計画・英語学芸会・研修会、その他会長より委嘱された事業の立案・計画・推進
[調査部] コミュニケーションテスト及び英語教育に関する調査の実施
[研究部] 語彙指導などの研究活動とその普及のための広報活動、研究発表会および公開授業の開催
[出版部] 中英研だより・会報などの発行
[プロジェクト・チーム部] 英語教育に関わる今日のかつ実践的な課題についての研究の推進

第5章 会 計

- 第12条 本会の会費は東京都中学校教育研究会よりの交付金をもってあてる。
- 第13条 本会の経費は会費およびその他の収入による。
- 第14条 本会の予算・決算は総会の承認を得なければならない。
- 第15条 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第6章 付 則

- 第16条 本会則は昭和60年4月1日より実施する。
- 第17条 本会則の変更は総会の承認を得なければならない。
- 第18条 細則は幹事会で定めることができる。
- 第1次改定 第5条2、3及び第4章4は平成17年5月19日より実施する。

平成 28 年度 東京都中学校英語教育研究会役員名簿

| 役 名 | 氏 名 | 所 属 校 |
|-------|-----------|---------------------------|
| 会 長 | 飯 島 光 正 | 豊 島 区 立 駒 込 中 学 校 |
| 副 会 長 | 五十嵐 浩 子 | 小 平 市 立 上 水 中 学 校 |
| ” | 石 鍋 浩 | 港 区 立 御 成 門 中 学 校 |
| ” | 川 越 豊 彦 | 荒 川 区 立 尾 久 八 幡 中 学 校 |
| ” | 松 永 透 | 連 雀 学 園 三 鷹 市 立 第 一 中 学 校 |
| ” | 惣 田 修 一 | 練 馬 区 立 大 泉 中 学 校 |
| ” | 和 田 文 宏 | 大 田 区 立 蒲 田 中 学 校 |
| ” | 刀 根 武 史 | 小 金 井 市 立 小 金 井 第 一 中 学 校 |
| ” | 田 谷 至 克 | 墨 田 区 立 両 国 中 学 校 |
| ” | 後 藤 正 彦 | 国 分 寺 市 立 第 四 中 学 校 |
| ” | 横 山 達 也 | 八 王 子 市 立 第 七 中 学 校 |
| 担当副会長 | 後 藤 正 彦 | 国 分 寺 市 立 第 四 中 学 校 |
| 総務部長 | 刀 根 武 史 | 小 金 井 市 立 小 金 井 第 一 中 学 校 |
| 経理部長 | 佐 藤 ひろみ | 八 王 子 市 立 横 川 中 学 校 |
| 副 部 長 | 田 中 誠 一 郎 | 三 鷹 市 立 第 六 中 学 校 |
| 部 員 | 近 藤 浩 | 板 橋 区 立 向 原 中 学 校 |
| ” | 新 野 美 紀 | 練 馬 区 立 大 泉 学 園 桜 中 学 校 |
| ” | 長 尾 諭 | 大 田 区 立 石 川 台 中 学 校 |
| ” | 佐々木 昭 央 | 目 黒 区 立 目 黒 第 九 中 学 校 |
| ” | 一 色 映 里 子 | 豊 島 区 立 千 登 世 橋 中 学 校 |
| ” | 西 卷 美 雪 | 小 金 井 市 立 小 金 井 第 一 中 学 校 |
| ” | 樋 口 明 香 里 | 小 金 井 市 立 小 金 井 第 一 中 学 校 |
| 担当副会長 | 五十嵐 浩 子 | 小 平 市 立 上 水 中 学 校 |
| 調査部長 | 岩 崎 紀 美 子 | 世 田 谷 区 立 玉 川 中 学 校 |
| 副 部 長 | 本 多 敏 幸 | 千 代 田 区 立 九 段 中 等 教 育 学 校 |
| 部 員 | 荒 川 高 広 | 千 代 田 区 立 九 段 中 等 教 育 学 校 |
| ” | 大 木 田 陽 子 | 足 立 区 立 加 賀 中 学 校 |
| ” | 大 澤 陽 子 | 町 田 市 立 小 山 中 学 校 |
| ” | 大 竹 希 依 子 | 八 王 子 市 立 長 房 中 学 校 |
| ” | 大 森 博 | 練 馬 区 立 中 村 中 学 校 |
| ” | 加 藤 真 由 子 | 調 布 市 立 第 五 中 学 校 |
| ” | 上 水 謙 治 | 品 川 区 立 荏 原 第 一 中 学 校 |
| ” | 榎 野 真 弓 | 武 蔵 野 市 立 第 五 中 学 校 |

| 役名 | 氏名 | 所属校 |
|-------|-------|-----------------|
| 部員 | 岸川裕子 | 府中市立府中第七中学校 |
| 〃 | 木村弘恵 | 目黒区立第七中学校 |
| 〃 | 斉藤基 | 日野市立三沢中学校 |
| 〃 | 白井靖子 | 江東区立深川第三中学校 |
| 〃 | 鈴木悟 | 東京都立両国高等学校附属中学校 |
| 〃 | 鈴木美帆 | 杉並区立向陽中学校 |
| 〃 | 須藤礼子 | 世田谷区立世田谷中学校 |
| 〃 | 高瀬ひとみ | 千代田区立九段中等教育学校 |
| 〃 | 丹生幸宣 | 国分寺市立第二中学校 |
| 〃 | 永井剛 | 日野市立七生中学校 |
| 〃 | 西尾恭子 | 江東区立第二砂町中学校 |
| 〃 | 前田秋輔 | 品川区立荏原第六中学校 |
| 〃 | 松村祐輔 | 足立区立竹の塚中学校 |
| 〃 | 宮崎太樹 | 八王子市立ひよどり山中学校 |
| 〃 | 山下郁子 | 日野市立大坂上中学校 |
| 担当副会長 | 川越豊彦 | 荒川区立尾久八幡中学校 |
| 事業部長 | 横山達也 | 八王子市立第七中学校 |
| 副部長 | 田口徹 | 千代田区立九段中等教育学校 |
| 〃 | 相沢隆二 | 文京区立第十中学校 |
| 部員 | 米澤登志子 | 狛江市立狛江第四中学校 |
| 〃 | 明石達彦 | 江戸川区立西葛西中学校 |
| 〃 | 大屋剛 | 国立市立国立第三中学校 |
| 〃 | 宮野和子 | 府中市立浅間中学校 |
| 〃 | 斉藤節子 | 清瀬市立清瀬第二中学校 |
| 〃 | 漆畑拓也 | 町田市立鶴川中学校 |
| 〃 | 前川卓哉 | 渋谷区立松濤中学校 |
| 〃 | 大竹希依子 | 八王子市立長房中学校 |
| 〃 | 亀田洋斉 | 国分寺市立第三中学校 |
| 〃 | 川越智子 | 大田区立大森第十中学校 |
| 担当副会長 | 和田文宏 | 大田区立蒲田中学校 |
| 研究部長 | 石井亨 | 千代田区立九段中等教育学校 |
| 副部長 | 関口智 | 江戸川区立清新第一中学校 |
| 〃 | 原田博子 | 文京区立第十中学校 |

| 役名 | 氏名 | 所属校 |
|-------|---------|---------------|
| 副部長 | 伊地知 義 則 | 豊島区立池袋中学校 |
| 〃 | 溪内 明 | 文京区立第八中学校 |
| 部員 | 上尾 栄美子 | 足立区立第五中学校 |
| 〃 | 江濱 悦子 | 大田区立大森第四中学校 |
| 〃 | 中川 智子 | 大田区立志茂田中学校 |
| 〃 | 前田 宏美 | 葛飾区立四ツ木中学校 |
| 〃 | 壽原 友理子 | 世田谷区立三宿中学校 |
| 〃 | 大竹 順子 | 杉並区立西宮中学校 |
| 〃 | 福田 真希子 | 江戸川区立鹿本中学校 |
| 〃 | 島田 朋美 | 荒川区立第四中学校 |
| 〃 | 水嶋 諒 | 江東区立深川第四中学校 |
| 〃 | 本田 大輔 | 北区立飛鳥中学校 |
| 〃 | 高杉 達也 | 千代田区立九段中等教育学校 |
| 〃 | 坪田 裕希 | 武蔵野市立第一中学校 |
| 〃 | 新井 正秀 | 板橋区立赤塚第一中学校 |
| 〃 | 根本 誉 | 北区立王子桜中学校 |
| 〃 | 太田 裕也 | 八王子市立第六中学校 |
| 〃 | 佐藤 優 | 多摩市立鶴牧中学校 |
| 〃 | 古川 悟 | 品川区立荏原第六中学校 |
| 〃 | 松木 大典 | 中野区立中野中学校 |
| 〃 | 藤野 康明 | 多摩市立多摩中学校 |
| 〃 | 森川 俊輔 | 世田谷区立駒沢中学校 |
| 〃 | 堀田 奈梨子 | 世田谷区立東深沢中学校 |
| 担当副会長 | 石鍋 浩 | 港区立御成門中学校 |
| 出版部長 | 今本 由美子 | 練馬区立大泉学園中学校 |
| 副部長 | 小柳 守生 | 足立区立西新井中学校 |
| 部員 | 溝口 千里 | 練馬区立石神井西中学校 |
| 〃 | 中井 正弘 | 小平市立小平第一中学校 |
| 〃 | 福田 貴音 | 台東区立御徒町台東中学校 |
| 〃 | 鈴木 咲子 | 東村山市立東村山第四中学校 |
| 〃 | 當麻 忠幸 | 西東京市立明保中学校 |
| 〃 | 岩田 歩 | 練馬区立大泉第二中学校 |
| 〃 | 深山 朋子 | 練馬区立北町中学校 |

あ と が き

ここに、平成 28 年度「中英研会報」第 75 号をお届けいたします。

本誌の発行に際しては、中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会外国語ワーキンググループのメンバーでいらした渡部 正嗣先生をはじめ、多くのご執筆者の皆様にご協力いただきましたことに、心から御礼申し上げます。各地区におかれましても、大変お忙しい中、部長の皆様、また地区幹事の皆様のご協力により、全地区から「地区活動状況」をご提出いただき、掲載することができました。データ入稿にもご協力いただき、ありがとうございました。

この会報が、都内各中学校の英語科教員の情報共有の場となり、英語科教員相互の連携、都の中学校英語教育の一層の充実、発展のお役に立てることを願っております。

最後になりましたが、本誌の発行にあたり、ご支援を賜りました多くの先生方に感謝いたしますとともに、会員の皆様の一層のご活躍をお祈りいたします。

(都中英研出版部長 今本 由美子)

都中英研会報 第75号

平成29年3月10日印刷
平成29年3月10日発行

発行者 東京都中学校英語教育研究会

代表者 飯島 光正

発行所 東京都中学校英語教育研究会
東京都豊島区立駒込中学校
東京都豊島区駒込4-5-1
TEL (03) 3918-2105

印刷所 (株) オフィス・サンライズ
東京都大田区鵜の木2-6-5
TEL (03) 5741-3146